

平成28年度 全国学力・学習状況調査
～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

はじめに

本市の子どもたちの学力は、教科ごとの平均正答率をみますと、小学校・中学校ともに全教科で全国平均を下回りました。小学校では昨年度よりも国語A・算数Bでは全国との差が縮まり、国語B・算数Aは差がわずかに広がりました。中学校では昨年度よりも、実施したすべての科目で全国との差が縮まりました。

学校ごとにみますと、4科目平均において全国平均を上回る小学校が4校、中学校3校で、学力向上に向けて成果をあげている学校もみられます。

このように改善の傾向が見られるものの、すべての教科において全国平均に届いていない状況にあることから、石狩市教育委員会は学校、家庭、地域の連携した取組により、子どもたちの力をより一層発揮させる必要があると受け止めています。

本調査は、「学力」だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習の状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した割合は、全国平均を上回っています。特に、中学校の生徒質問紙では「国語の勉強が好き」「国語の授業が分かる」と回答した割合は、全国平均を上回っています。一方で、平日（月～金）に「3時間以上ゲームしている」「3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする」「3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする」小・中学生の割合は、昨年と比較し、改善傾向にあるものの、依然として全国平均を上回り、家庭の学習時間とのバランスが大きな課題となっています。

学校質問紙からは、「家庭学習の課題を与える」「保護者への啓発」「教職員間の共通理解」など、家庭学習の定着に向けた学校の取組に改善が見られ、全国平均を上回りました。また、「礼儀よく、落ち着いた授業態度」「私語が少なく落ち着いている」など、規律正しく、落ち着いて生活・学習に取り組む現状も見られました。さらには、近隣の小中学校と教科の指導内容や指導方法の連携を図り、地域の人や保護者の学校支援ボランティアを積極的に受け入れるなど、学校の教育水準向上に結び付けている実態も読み取れました。

本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT検査」を市内全校で実施しています。市内各校では、それらの調査結果も併せて総合的に分析し、自校の教育指導の改善を図っていることが、設問の回答から伺えます。

教育委員会としては、今回の結果にあらわれたこれまでの取組の成果と課題を総合的に勘案し、今後の改善対策を各校と連携し進めてまいります。

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査（国語、算数・数学）
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度は、抽出（全国で約30%）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加による実施となり、平成24年度は、平成22年度同様の形式で実施されました。

平成25年度以降は、平成19年度～21年度と同様、全国すべての小中学校を対象として実施されました。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」(<http://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/index.htm>)

5. 調査実施日

平成28年 4月19日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校：市内13校のうち、6年生が在籍しない学校1校を除く12校で実施 594名
中学校：市内全中学校8校で実施 532名

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	10.9問/15問	72.9%	5.8問/10問	57.8%
全道(公立)	10.7問/15問	71.0%	5.6問/10問	56.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				☆	◎								☆					
全国 : ☆																		

相当高い … 7ポイント以上の範囲

高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内

やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内

ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内

同様 … ±1ポイント未満の範囲内

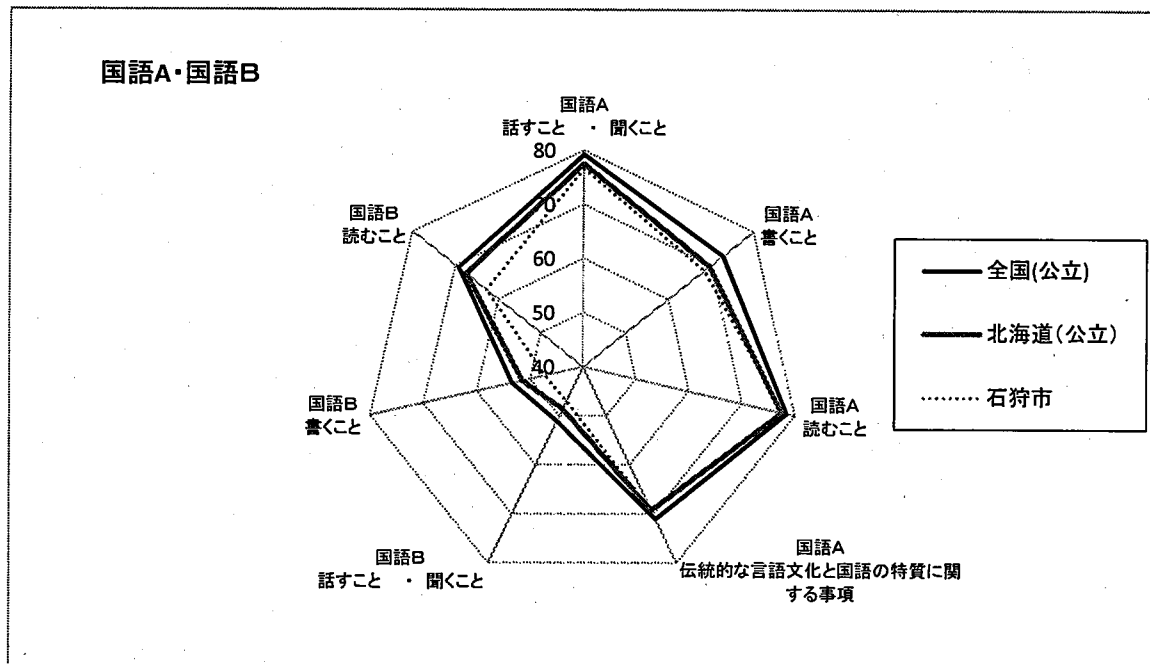
ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内

やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内

低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内

相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語Aは全道平均と同様で、全国平均とほぼ同様(下位)の結果となりました。昨年度より差が大きく縮まりました。
- ◇ 国語Bについては全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中で、国語Aでは「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全道を上回り全国との差が縮まりました。
- ◇ 国語Bでは「書くこと」「読むこと」の領域で全道・全国との差が広がりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、国語Aで選択式・短答式が全道と同様、全国とほぼ同様(下位)の結果となりました。
- ◇ 国語Bで選択式・記述式が全道よりやや低く、全国より低い結果となりました。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる次の問題で構成されています。
- ・目的や意図に応じて、収集した情報を関係づけながら話し合う。
 - ・書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。
 - ・目的に応じて、図と表とを関係づけて読む。
 - ・登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。
 - ・用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める。
 - ・設問数は15問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道と同様で全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国と比べ同様の傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道と比べ同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1-1	漢字を読む (今日は全国的に快晴だ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.3%	82.8%	79.3%
3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する	書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する	書くこと	63.2%	62.7%	67.4%
5	公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する	目的に応じて、図と表とを関係付けて読む	読むこと	93.6%	93.2%	93.1%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
4	委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する	書くこと	73.7%	76.6%	78.2%
8-2	ローマ字を書く (あさって)	平仮名で表記されたものをローマ字で書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	40.1%	39.0%	41.8%

〈指導の改善にあたって〉

- ・目的や意図に応じて事柄を整理して書く指導に当たっては、取材した後で目標と活動内容が合っているかどうかを判断し、足りないところがあれば追加取材ができるように指導していく必要があります。
- ・ローマ字で書いたりやローマ字で表記されたものを正しく読む指導に当たっては、該当学年での学習に留まらず、繰り返し読んだり書いたりすることが大切です。その際、児童に必要性が感じられるように、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットなど、ローマ字が使われている日常の場面と結びつけながら指導することが大切です。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。
- ・インタビューメモを基に、話し手の意図を捉えながら聞いたり話の展開に沿って質問したりする。
 - ・目的や意図に応じ、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるように工夫して活動を報告する文章を書く。
 - ・目的に応じて、複数の本や文章を比べ、自分の考えを明確にしながら読む。
 - ・設問数は10問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」「読むこと」の領域は、全道と比べやや低く、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1二	スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	話すこと 聞くこと	47.9%	48.1%	51.1%
3一	「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む	読むこと	72.3%	75.1%	77.2%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	話すこと 聞くこと	45.4%	47.0%	50.4%
2一	「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する	グラフを基に、分かったことを的確に書く	書くこと	38.4%	41.2%	43.4%

〈指導の改善にあたって〉

- ・話し手の意図を捉えながら聞いたり、話したりする指導に当たっては、日常における会話や学習活動での話し合い等において、相手の話を受けて返すという態度を意図的に育てていく必要があります。また、自分の話す・聞く活動を振り返り、よかった点や改善すべき点を明らかにし、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと関連させながら指導していく必要があります。
- ・グラフを基に分かったことを的確に書く指導に当たっては、国語科だけでなく、社会科や算数科などで学習した図表やグラフの読み方を生かし、読み取ったことを的確に表現できるように指導していくことが大切です。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の58.5%、全国の58.3%に対して石狩市は50.7%で、全道より7.8ポイント、全国より7.6ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.7%、全国の91.3%に対して石狩市は87.7%で、全道より4.0ポイント、全国より3.6ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.9%、全国の80.7%に対して石狩市は75.3%で、全道より5.6ポイント、全国より5.4ポイント低くなっています。

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

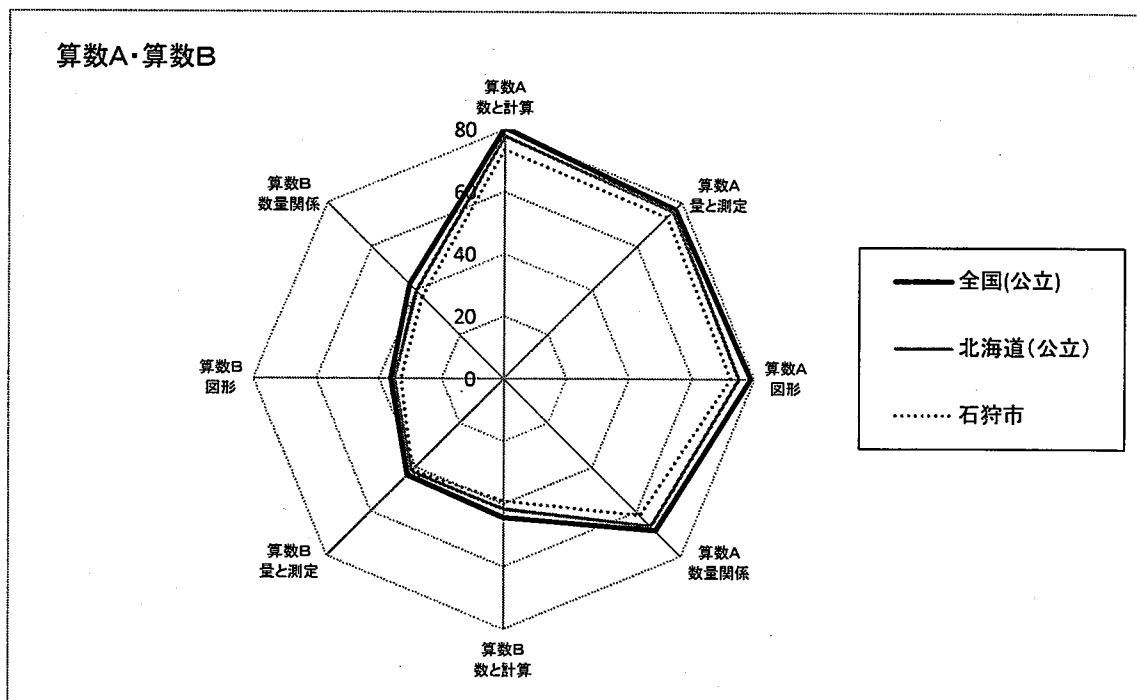
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	12.4問/16問	77.6%	6.1問/13問	47.2%
全道(公立)	12.0問/16問	75.3%	5.8問/13問	44.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				☆									☆					
全国 : ☆							○								○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域別正答率グラフ □



□ 算数科の概要 □

- ◇ 算数Aの平均正答率は、全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 算数Bの平均正答率は、全道平均とほぼ同様（下位）で、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」領域の中で、算数Aで「量と測定」が全道平均とほぼ同様（下位）で、全国平均よりもやや低い結果となりました。
- ◇ 算数Bでは「量と測定」が全道平均と同様で、全国平均とほぼ同様（下位）の結果となりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、算数Aで選択式・短答式が全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。
- ◇ 算数Bの選択式・記述式での正答率は、全道とほぼ同様（下位）の結果となりました。

算数 A（主として「知識」に関する問題）

- 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。
- ・除法の性質に基づいて、小数の計算を整数の計算に置き換える。
 - ・単位量当たりの大きさを求める式を書く。
 - ・直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ。
 - ・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合が、一番大きいものを選ぶ。
 - ・設問数は16問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べやや低い傾向で、全国より低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国よりやや低い傾向にあります。
- ・「図形」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向にあります。
- ・「数量関係」の領域は、全道と比べやや低い傾向で、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
3 (1)	二つの数の大小関係を表す不等号を書く	不等号を理解している	数と計算	95.8%	96.7%	96.7%
4	8 m ² に14人座っているシートについて、1 m ² 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	量と測定	70.5%	72.2%	72.0%
6	4枚の三角定規でつくることができる形を選ぶ	図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる	図形	74.5%	78.7%	79.6%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (3)	18 ÷ 0.9を計算する	小数の除法の計算をすることができる	数と計算	64.4%	72.7%	77.7%
7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ	直方体における面と面の位置関係を理解している	図形	70.0%	71.3%	78.0%
9 (2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している	数量関係	42.3%	48.7%	50.9%

〈指導の改善にあたって〉

- ・除数が1より小さい小数の割り算の指導に当たっては、日々の授業の中で繰り返し答えを見積ったり、予想させたりすることが大切です。
- ・立体図形の指導に当たっては、立方体や直方体の面に三角定規を当て、面と面の平行や垂直な関係を調べたりする活動を通して理解させる必要があります。
- ・割合の学習で比較量や基準量を求める指導に当たっては、問題を丁寧に読み解き、図や数直線に表して、分かりやすく捉えることができるように指導していく必要があります。割合が日常生活の様々な場で用いられていることを気付かせ、理解させていく必要があります。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる、次に示す問題で構成されています。
- ・示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する。
 - ・示された式の中の数値の意味を、ほかの数値や演算と関係付けて解釈し、それを記述する。
 - ・グラフから読み取れる情報を根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する。
 - ・除法の式の形と関連づけ、角の大きさを基に、その式の意味を記述する。
 - ・設問数は13問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道と同様で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向にあります。
- ・「図形」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (1)	1辺が9cmの正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる	数と計算 量と測定	91.2%	91.8%	92.6%
4 (1)	学校ごとの1人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ	単位置量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる	量と測定 数量関係	46.9%	47.0%	48.3%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (3)	目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる	数と計算	13.5%	13.6%	15.6%
4 (3)	A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる	数量関係	21.4%	22.7%	24.9%
5 (1)	示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる	数と計算 量と測定 図形 数量関係	4.0%	5.4%	6.9%

〈指導の改善にあたって〉

- ・式の中の数値の意味を解釈し、そのことについて記述する指導に当たっては、日常生活の事象と関連付けて考えさせる場を設けることが大切です。
- ・グラフを読み取り、その根拠を言葉や数値を用いて記述させる指導に当たっては、複数の折れ線グラフを示し、比較する場面を取り上げ、変化の大きさや増え方の大きさの違いについて考察する場を設けることが大切です。
- ・図形と式を関連付けて式の意味を説明させる指導に当たっては、式についての意味を児童同士で再確認したり、ノートに記述し整理させながら説明できる場を設けることが必要です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の64.1%，全国の66.0%に対して石狩市は59.3%で、全道より4.8ポイント，全国より6.7ポイント低くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.4%，全国の91.9%に対して石狩市は88.4%で、全道より3.0ポイント，全国より3.5ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の77.8%，全国の80.2%に対して石狩市は71.5%で、全道より6.3ポイント，全国より8.7ポイント低くなっています。

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校国語】

□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	25.0問/33問	75.6%	6.0問/9問	66.5%
全道(公立)	24.8問/33問	75.1%	5.8問/9問	65.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 ; ○ 全国 ; ☆					☆	○							☆			○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲

高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内

やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内

ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内

同様 … ±1ポイント未満の範囲内

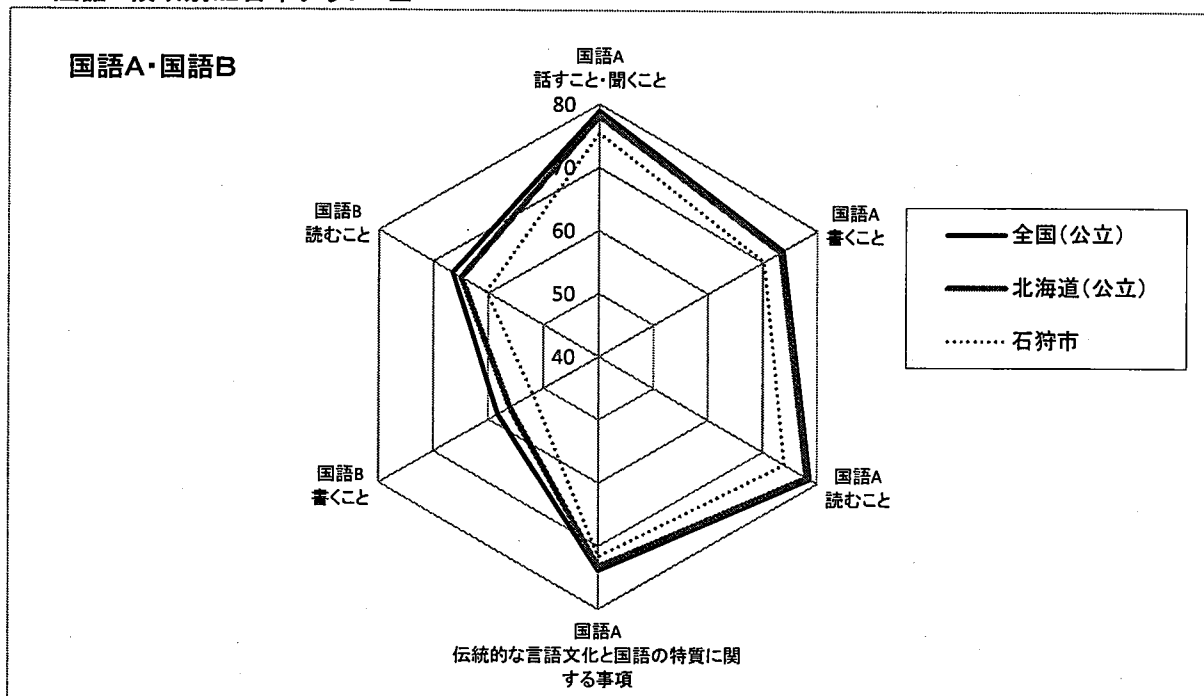
ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内

やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内

低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内

相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語Aは全道平均とほぼ同様(下位)で、全国平均よりやや低い結果となりましたが、昨年度より差が縮まりました。
- ◇ 国語Bについては全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりましたが、昨年度より差が縮まりました。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中で、国語Aでは「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全道とほぼ同様(下位)で全国との差が縮まりました。
- ◇ 国語Bでは「書くこと」「読むこと」の領域で全道よりやや低い結果となりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、国語Aで選択式・短答式が全道とほぼ同様(下位)、全国とは選択式がほぼ同様(下位)の結果となりました。
- ◇ 国語Bは選択式・短答式・記述式で全道・全国よりやや低い、又は低い結果となりました。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技術が身に付いているかどうかをみる、以下の内容の問題で構成されています。
- ・絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する。
 - ・パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考にして書く。
 - ・奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する。
 - ・「忘れがたき」の意味として適切なものを選択する。
 - ・設問数は33問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、全道・全国とほぼ同様（下位）な傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
7二	話を踏まえた発言として適切なものを選択する	互いの発言を検討して自分の考えを広げる	話すこと 聞くこと	60.6%	60.9%	62.0%
2二	文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択する	集めた材料を整理して文章を構成する	書くこと	72.5%	73.8%	73.2%
3二	「私」にとってのライスカレーを説明したものとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	読むこと	86.3%	89.1%	90.0%
9一1	漢字を書く（大学で歴史のケンキュウをする）	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な 言語文化 と国語の 特質に関 する事項	85.3%	82.8%	83.5%
9四ア	漢和辞典の「意味」の中から、「賛美」の「美」の意味として適切なものを選択する	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える		62.9%	62.7%	60.3%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
7一	相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する	話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する	話すこと 聞くこと	65.5%	71.5%	70.6%
4二	質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	書くこと	71.9%	77.2%	78.7%
8一	奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する	奥付の特徴や役割を理解する	読むこと	79.1%	86.0%	86.1%
9一2	漢字を書く（今までにないドクソウ的な考えだ）	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な 言語文化 と国語の 特質に関 する事項	20.0%	25.2%	26.1%
9三ウ	適切な語句を選択する（弟子を手塩にかけて育てる）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う		55.0%	58.3%	59.3%

〈指導の改善にあたって〉

【話すこと・聞くこと】

相手の意見を聞く際には、主張や根拠などに注意して聞き、要点を捉える必要があります。そのためには、相手の主張や根拠をノートにメモしながら聞き、聞きとった内容が適切かどうかを相手に確認した上で自分の考えを比較するなどの学習活動を進めることが考えられます。

【書くこと】

読み手に対して、根拠が明確になるように工夫して書く必要があります。そのためには根拠を示した事実が適切であるか確かめた上で、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対してどの部分が根拠であるかが分かるような表現上の工夫をするよう指導することが大切です。

【読むこと】

本から必要な情報を得る際には、「目次」「索引」「奥付」等の特徴や役割を理解し、目的に応じて活用できるようにすることが大切なことから、例えば、本の発行年に着目しなければならない課題を設定し、奥付を活用しながら適切な情報を収集するなどの指導が必要です。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

漢字を書くことの指導については漢字を日常的に使用するとともに、漢字の部首や意味について確認することが大切なことから、国語の学習とともに、各教科等における学習の中で漢字を適切に使用できるよう指導が大切です。また、教師が意識的に慣用句やことわざを用いて話したり、掲示物や配布物に取り入れたりするなど、言語環境を整えることも効果的です。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技術を活用できるかどうかをみる、以下に示す内容の問題で構成されています。

- ・ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く。
- ・宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く。
- ・図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分とどのようなことが分かったかを書く。
- ・設問数は9問です。

【各領域の傾向】

- ・「書くこと」「読むこと」の領域はいずれも全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く	書くこと 読むこと	65.1%	65.7%	68.0%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1一	ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的部分とを読み分け、要旨を捉える	読むこと	68.9%	75.4%	76.2%
3三	図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く	書くこと 読むこと	44.5%	52.5%	57.7%

〈指導の改善にあたって〉

【読むこと】

ちらしやポスターなど実用的な文章を読み、内容を的確に捉えるためには、目的に応じて中心的部分と付加的部分とを読み分けたり、実際に身の回りにあるちらしを比較しながら読み、話し合うなどの学習活動が考えられます。

【書くこと】

適切な情報収集の方法を身に付けさせるとともに、資料から得た情報を踏まえることで、想像が広がったり理解が深まったりした内容について、根拠を明確にして話し合うような指導が必要です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 62.4%，全国の 59.8%に対して石狩市は66.5%で、全道に比べ 4.1ポイント，全国に比べて6.7ポイント高くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の88.9%，全国の89.1%に対して石狩市は92.1%で、全道に比べ3.2ポイント，全国に比べ3.0ポイント高くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の75.6%，全国の74.1%に対して石狩市は77.5%と、全道に比べ1.9ポイント，全国に比べ3.4ポイント高くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の73.5%，全国の69.9%に対して石狩市は73.5%で、全道と同様で、全国に比べ3.6ポイント高くなっています。
- ・国語の授業中の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」の肯定的な回答が全国よりもやや低い他は、「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の各設問での肯定的な回答率は、いずれも、全道・全国とほぼ同様となっています。

平成28年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校数学】

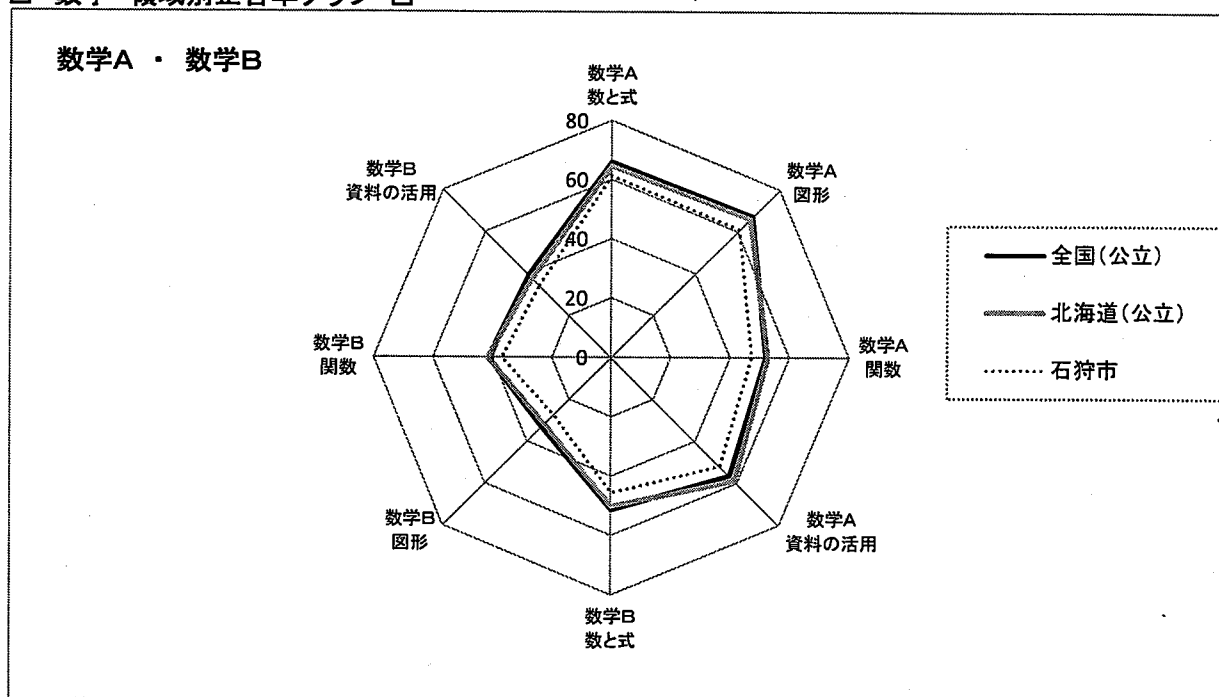
□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	22.4問/36問	62.2%	6.6問/15問	44.1%
全道(公立)	22.2問/36問	61.8%	6.5問/15問	43.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全国 : ☆					☆		○							☆		○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域別正答率グラフ □



□ 数学科の概要 □

- ◇ 数学Aの平均正答率は、全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりましたが、昨年度より差が縮まりました。
- ◇ 数学Bの平均正答率は、全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりましたが、昨年度より差が縮まりました。
- ◇ 「数と式」「図形」「関数」「資料活用」領域の中で、数学Aで「数と式」が全道・全国平均よりやや低い結果となりました。
- ◇ 数学Bではすべての領域で全道・全国平均よりやや低い、若しくは低い結果になりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、数学Aで選択式・短答式が全道平均よりやや低く、全国平均より低い結果となりました。
- ◇ 数学Bの選択式での正答率は、全道・全国平均とほぼ同様(下位)の結果となりました。

数学 A（主として「知識」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする。一元一次方程式を解く。
- ・対称移動した図形をかく。多角形の外角の和について正しい記述を選ぶ。
- ・反比例のグラフから式を求める。一次関数の表からグラフを選ぶ。
- ・与えられた資料の最頻値を求める。確率について、正しい記述を選ぶ。
- ・設問数は36問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と式」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道より低く・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「資料の活用」の領域は、全道より低く・全国よりやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
3 (3)	縦と横の長さの比が5:8の長方形の看板について、縦の長さが45cmのときの横の長さ x cmを決めるための比例式をつくる	具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	数と式	56.1%	54.1%	52.3%
7 (3)	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	命題の逆を理解している	図形	70.4%	72.0%	72.3%
9 (2)	比例 $y=2x$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	比例の式について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる	関数	40.9%	45.2%	39.4%
13 (1)	1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ	「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解している	資料の活用	64.4%	66.8%	66.0%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (2)	-5, 0, 1, 2.5, 4の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解している	数と式	30.5%	40.1%	40.6%
5 (4)	円柱の体積が600 cm^3 のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める	円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の $1/3$ であることを理解している	図形	39.4%	45.3%	49.9%
9 (4)	反比例のグラフから式を求める	反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことができる	関数	25.6%	33.2%	34.5%
12 (1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	資料の活用	33.5%	44.3%	45.5%

【無回答率の高い設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全 道		全 国	
				正答率	無回答率	正答率	無回答率	正答率	無回答率
10 (2)	一次関数の式から変化の割合を求める	一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解している	関数	50.3%	29.4%	60.3%	19.2%	54.6%	22.3%

〈指導の改善にあたって〉

【数と式】

正の数と負の数の範囲で数の集合を捉え直す場面を設定し、数についての理解を深め、自然数や整数の意味を理解できるように指導することが大切です。その際、0は整数に含まれるが、自然数には含まれないことを確認する必要があります。

【図形】

命題とその命題の逆について理解させるためには、仮定と結論を区別し、それらを入れかえ、もとの命題の逆を作る場面を設定し、理解できるように指導することが大切です。

【関数】

反比例は x と y の値の積が常に一定の値 a になることを調べ、 $y = a/x$ という式で表せることを確認するとともに、反比例のグラフは x 軸と y 軸に限りなく近づくが交わらない特徴があることを確認する指導が必要です。

【資料の活用】

目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、資料の代表値を求めることができるように指導することが大切です。その際、読んだ本の冊数の最頻値とは、何冊読んだ人が一番多いのかを表すものであり、その人数でないことを確認する場面を設定することが大切です。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・前提となる条件を判断し、それが適している理由を表の数字を基にして説明する。
- ・2種類の自動車を使用する際の総費用が等しくなる使用年数を求める方法について、式またはグラフを用いて説明する。
- ・付加された条件の下で、見いだした事柄について数学的な表現を用いて説明する。
- ・グラフの形や代表値に着目して、平均値を用いて判断することが適切でないことを説明する。
- ・設問数は15問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と式」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「資料の活用」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・無回答率が高い設問の多くは記述式問題形式で、全道・全国と同じ様な傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (1)	一次関数の表から $x=4$ のときの y の値を求める	条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることができる	関数	57.2%	64.0%	59.1%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (2)	$x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する	加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる	関数	13.2%	19.1%	20.6%
4 (2)	$DA:DC=1:2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる	図形	30.0%	34.5%	37.3%

【無回答率の高い設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全道		全国	
				正答率	無回答率	正答率	無回答率	正答率	無回答率
6 (2)	文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる	数と式	14.9%	50.8%	14.8%	44.7%	15.4%	41.5%

〈指導の改善にあたって〉

【関数】

表から変化や対応の特徴を捉え、対応する値を求める活動を取り入れ、 x の値に対する y の値を求める学習活動に取り組む必要があります。

【図形】

付加された条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするためには、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れる指導をすることが大切です。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の52.9%、全国の 56.0% に対して石狩市は、52.4%で全道より 0.5ポイント、全国より3.6ポイント低くなっています。
- ・「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の78.8%、全国の80.5% に対して石狩市は77.4% で、全道より 1.4ポイント、全国より3.1ポイント低くなっています。
- ・「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の67.6%、全国の69.4% に対して石狩市は64.2% と、全道より3.4ポイント、全国より5.2ポイント低くなっています。
- ・「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.0%、全国の91.3% に対して石狩市は89.0% で、全道より2.0ポイント、全国より2.3ポイント低くなっています。
- ・「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的な回答は、全道・全国よりやや下回っています。また、「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の肯定的な回答は全道よりやや高く、全国よりはやや低い結果となりました。

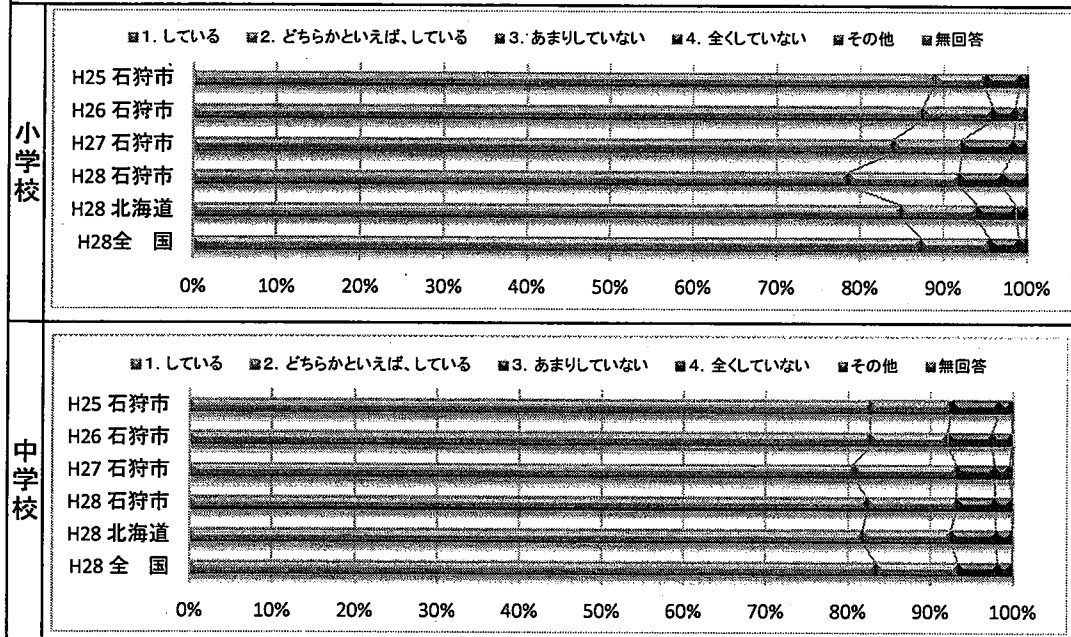
平成28年度 学習状況調査 [児童・生徒質問紙] より

I 生活習慣

朝食を食べる習慣は中学生で改善傾向

「朝食を毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小学生で91.9%(全国比-3.6ポイント、全道比-2.1ポイント)で、中学生では、93.2%(全国比-0.1ポイント、全道比+0.7ポイント)でした。中学生で朝食をとる習慣の改善傾向が伺えます。

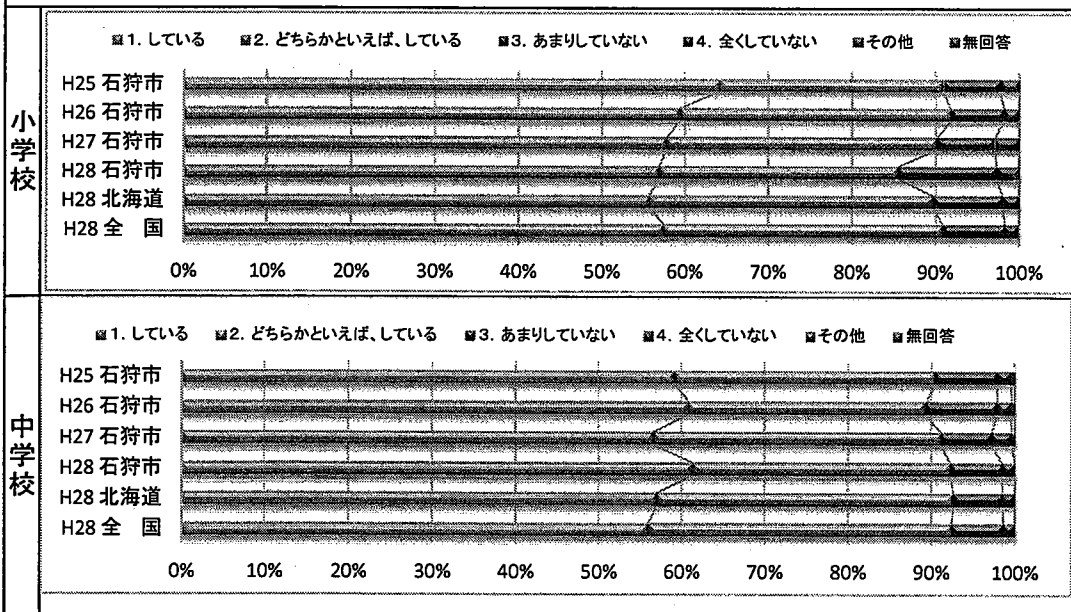
1. 朝食を毎日食べていますか



起床・就寝時刻は中学生で定着傾向

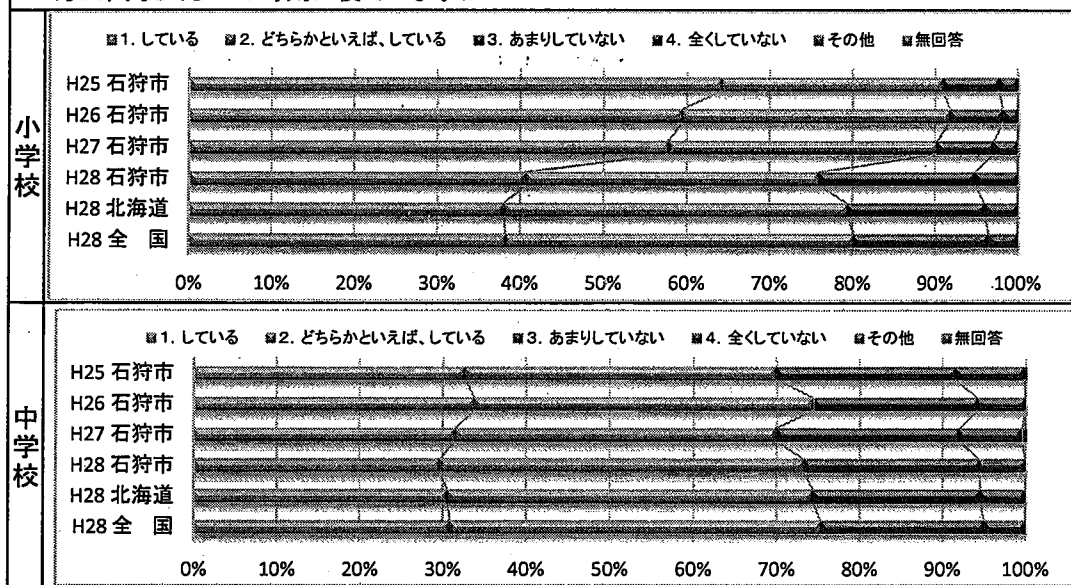
「毎日、同じくらいの時刻に起きています・どちらかといえばそうしている」割合は、小学生で85.5%(全国比-5.3ポイント、全道比-4.2ポイント)で、中学生では、91.9%(全国比-0.4ポイント、全道比-0.6ポイント)でした。起床時間の定着が伺えます。

2. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえばそうしている」割合は、小学生で75.9%(全国比+4.2ポイント、全道比+3.4ポイント)で、中学生では、73.1%(全国比+2.1ポイント、全道比+1.2ポイント)でした。

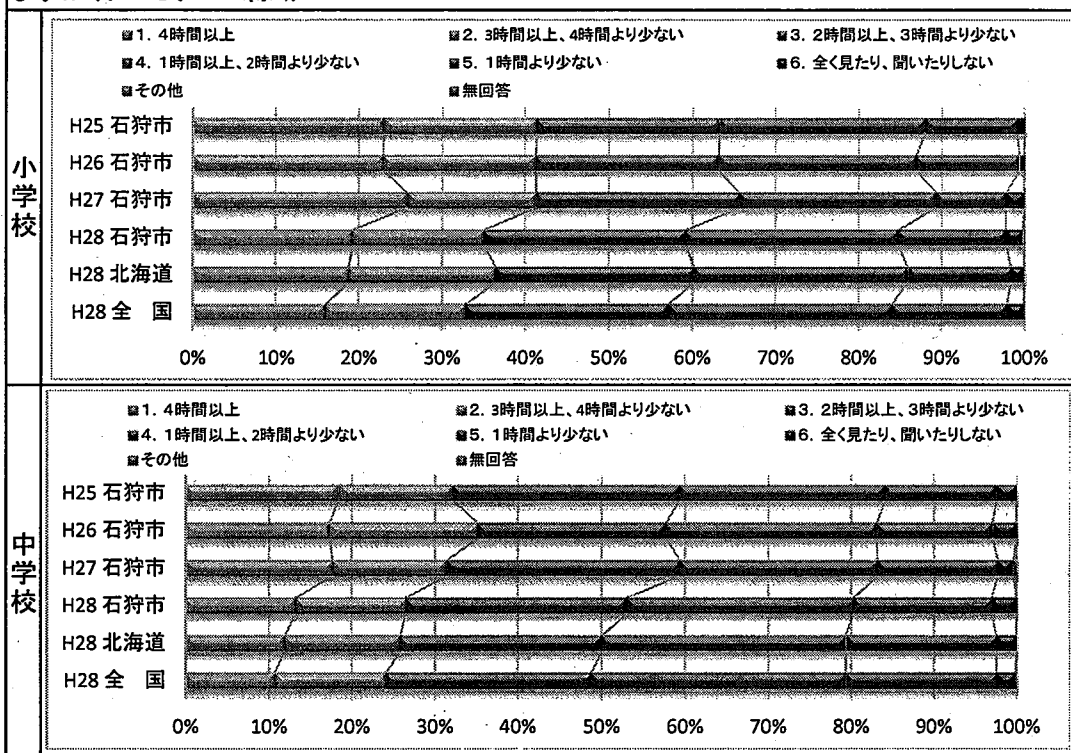
3. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



テレビ・ビデオ等の視聴やテレビゲーム等の時間は、全国よりも多い傾向

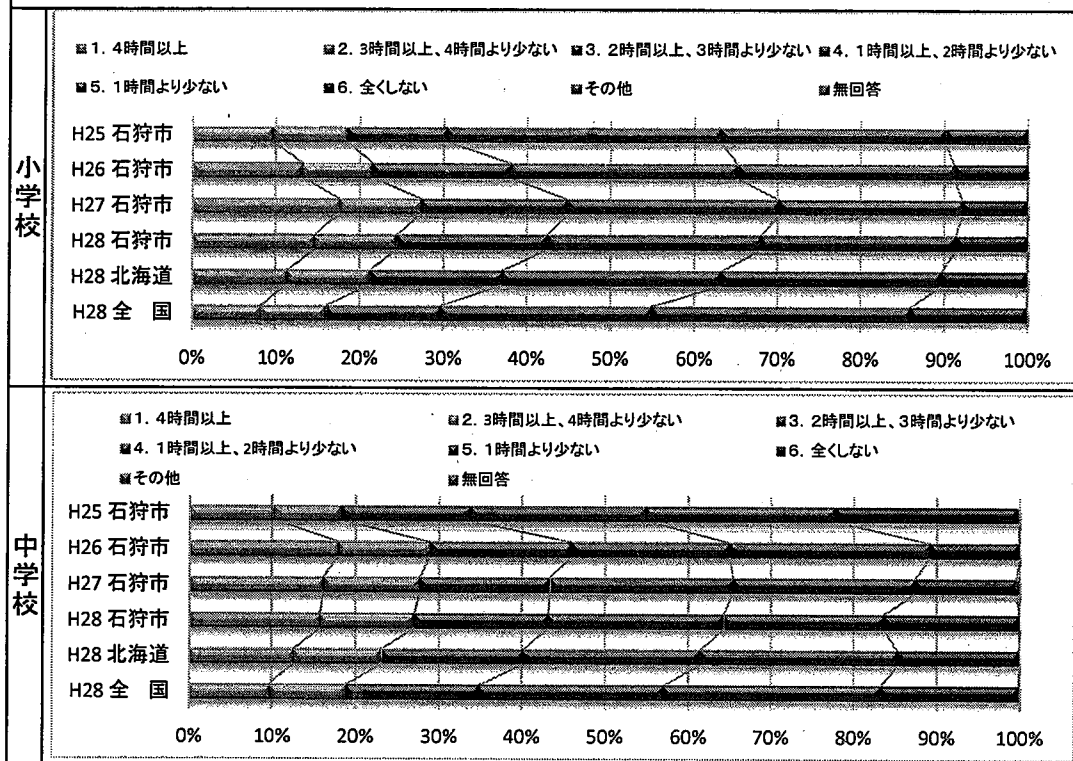
普段(月～金曜日)、1日当たり「3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている」は、小学生で35.0%(全国比+2.2ポイント、全道比+1.5ポイント)で、中学生では、26.5%(全国比+2.4ポイント、全道比+0.7ポイント)でした。全道・全国平均よりも高い傾向にあります。

4. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



普段(月～金曜日), 1日当たり「3時間以上テレビゲームをしている割合は、小学生で24.4%(全国比+8.4ポイント, 全道比+3.2ポイント)で、中学生では、27.1%(全国比+8.2ポイント, 全道比+4.0ポイント)でした。小学生、中学生もゲームをする時間が増加傾向にあります。

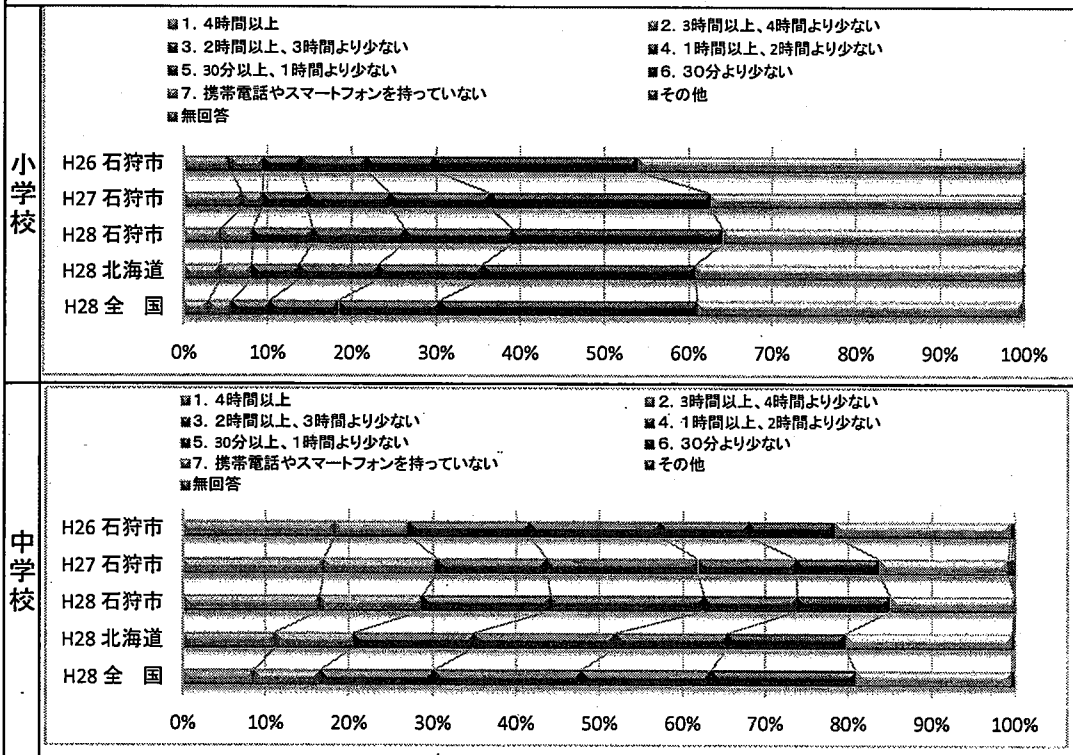
5. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



メール・インターネットの時間も多い傾向

普段(月～金曜日), 1日当たり「3時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしている」割合は、小学生で8.1%(全国比+2.4ポイント, 全道比+0.1ポイント)で、中学生では、28.7%(全国比+12.1ポイント, 全道比+8.1ポイント)でした。小学生も中学生も、利用している割合が高い状況にあります。

6. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

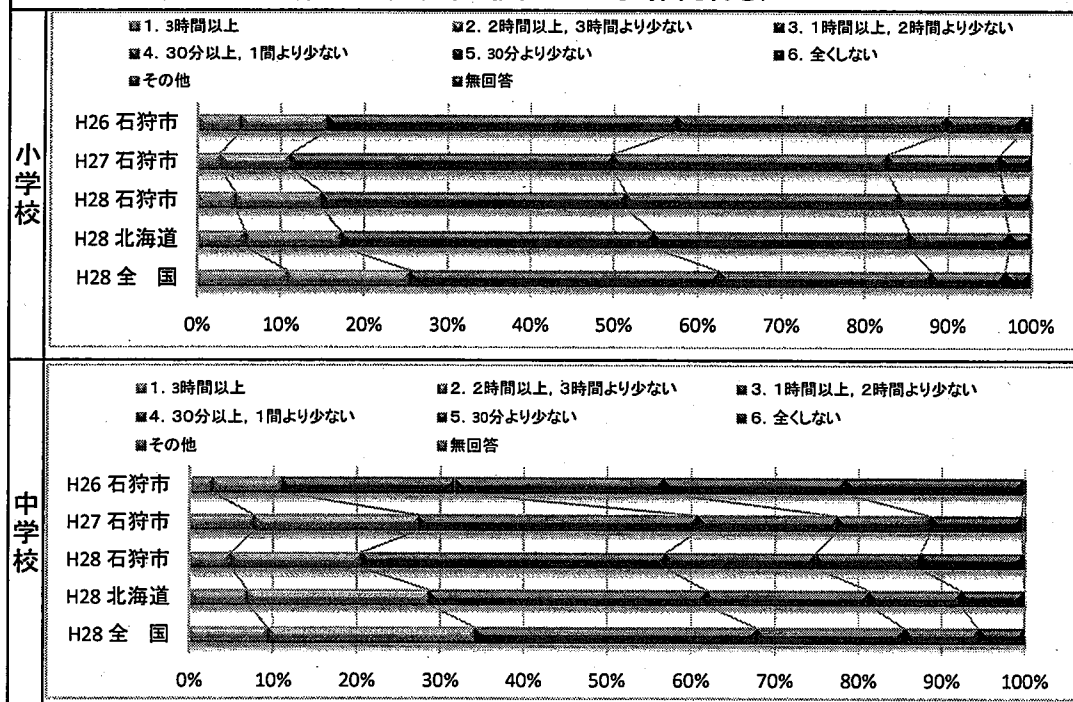


Ⅱ 家庭学習・読書

平日、土・日の学習時間は全国より少ない傾向。小学生はやや増加傾向

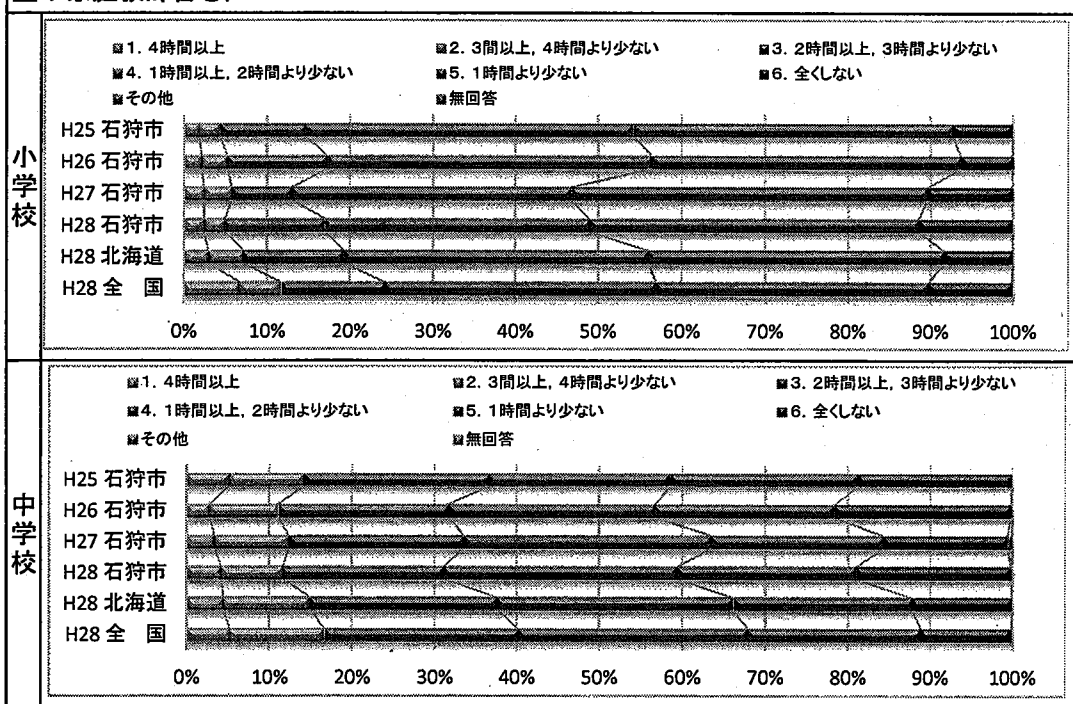
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している児童生徒の割合は、小学生で51.4%(全国比-10.6ポイント、全道比-2.3ポイント)で、中学生では57.0%(全国比-13.7ポイント、全道比-8.1ポイント)でした。小学生の勉強時間が、昨年度よりも増加しています。

7. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり「2時間以上勉強する」と回答している児童生徒の割合は、小学生で17.0%(全国比-6.8ポイント、全道比-2.2ポイント)で、中学生では31.1%(全国比-5.0ポイント、全道比-3.3ポイント)でした。

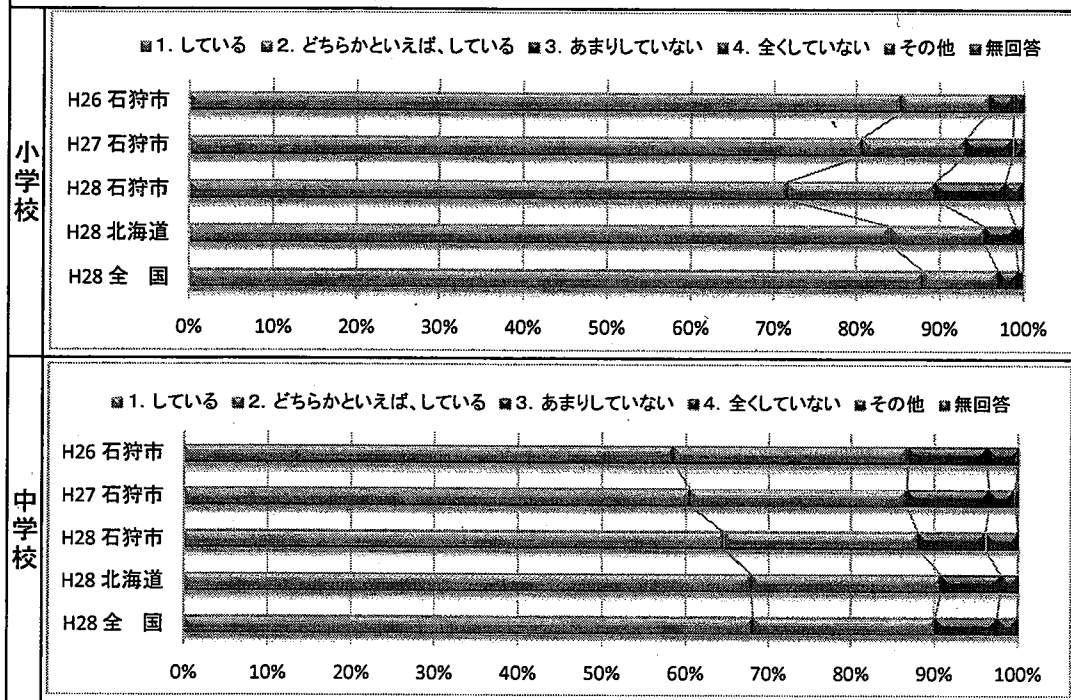
8. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



家庭学習の取組方法に課題

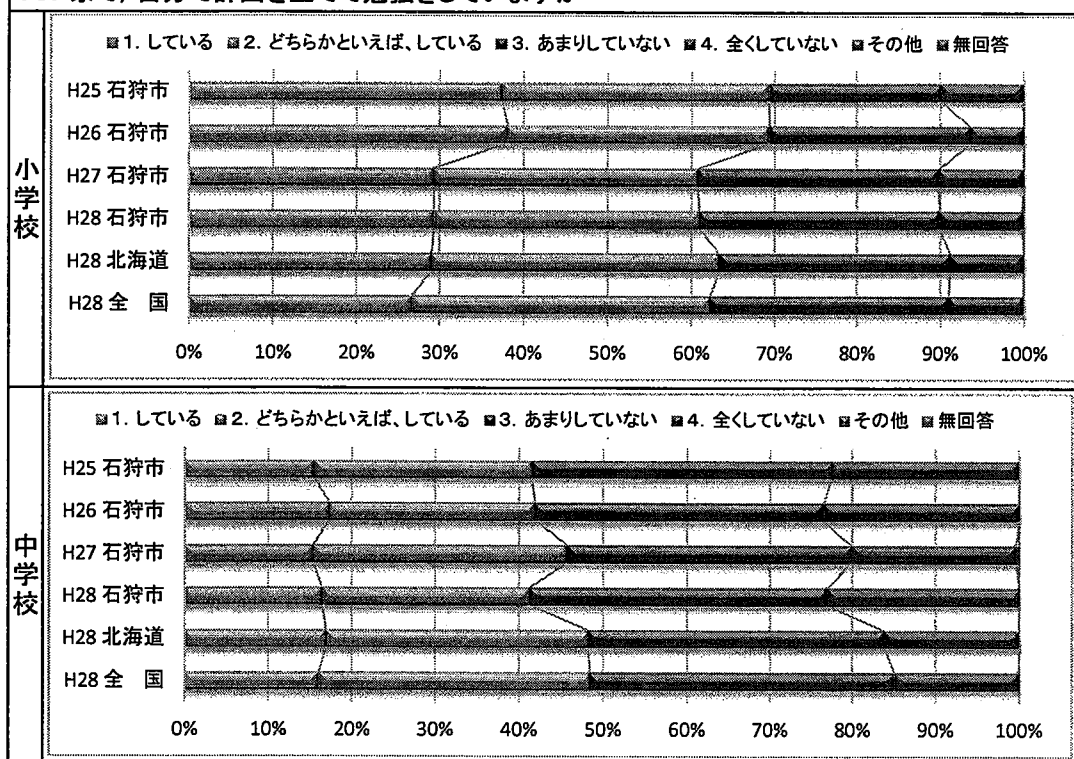
家で、「学校の宿題をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で89.3%(全国比-7.7ポイント、全道比-6.0ポイント)で、中学生では88.0%(全国比-2.1ポイント、全道比-2.8ポイント)でした。

9. 家で、学校の宿題をしていますか



家で、「自分で計画を立てて勉強をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で60.9%(全国比-1.3ポイント、全道比-2.4ポイント)で、中学生では41.2%(全国比-7.2ポイント、全道比-7.0ポイント)でした。

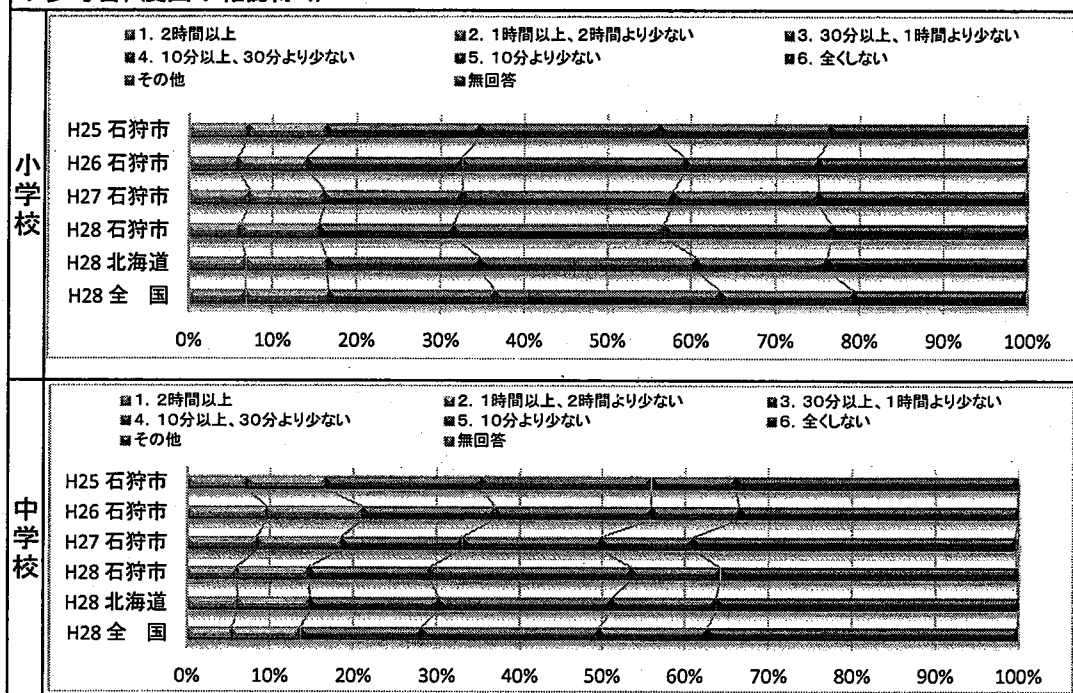
10. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



家庭や図書館で2時間以上読書をする小・中学生は、全国とほぼ同様

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上読書をする」割合は、小学生で15.5%(全国比-1.2ポイント、全道比-0.9ポイント)で、中学生では、14.6%(全国比+1.0ポイント、全道比-0.2ポイント)でした。1時間以上読書をする小学生、中学生の割合は全国平均となっています。

11. 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

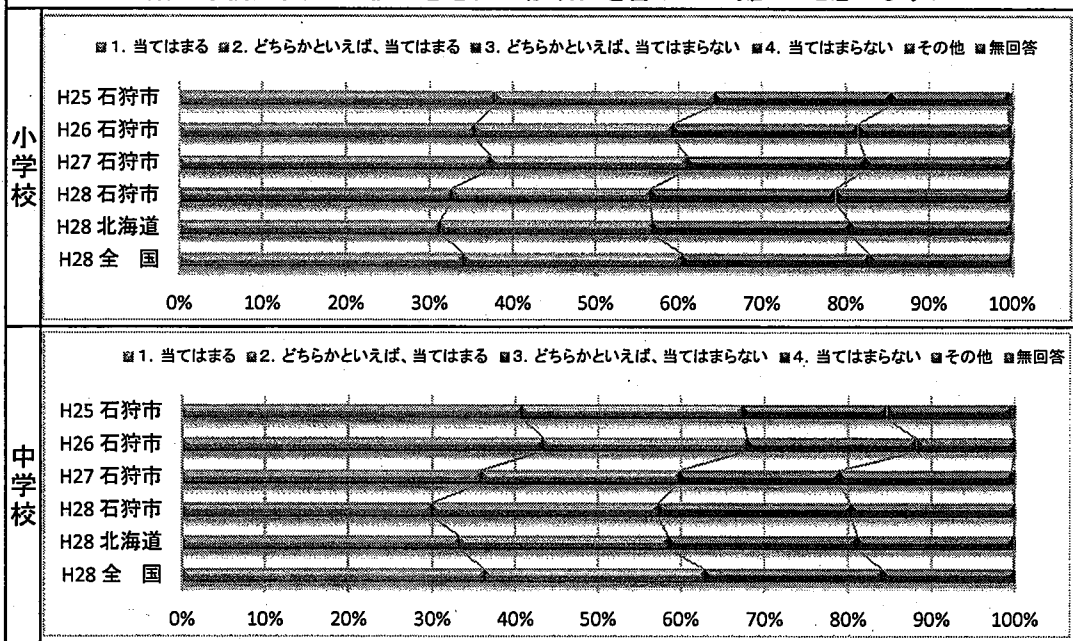


Ⅲ 国語の学習について

決められた字数の作文を苦手とする小中学生は、全道とほぼ同じ傾向

「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う・どちらかといえば思う」割合は、小学生で56.8%(全国比-3.6ポイント、全道比0.0ポイント)で、中学生では57.2%(全国比-5.6ポイント、全道比-1.3ポイント)でした。作文苦手とする小学生・中学生の割合は、全道平均とほぼ同様の傾向にあります。

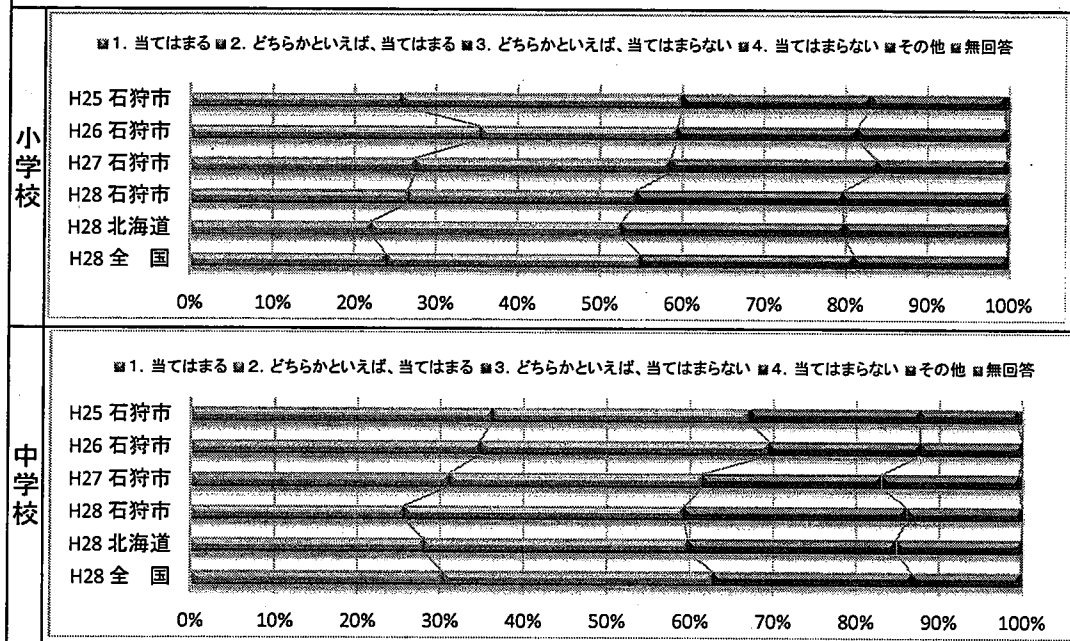
12. 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



自分の考えを表現することに課題

学校の授業などで、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う・どちらかといえば思う」割合は、小学生で54.4%(全国比-0.4ポイント、全道比+1.9ポイント)で、中学生では59.2%(全国比-3.6ポイント、全道比-0.5ポイント)でした。小学生も中学生も、改善傾向にあります。

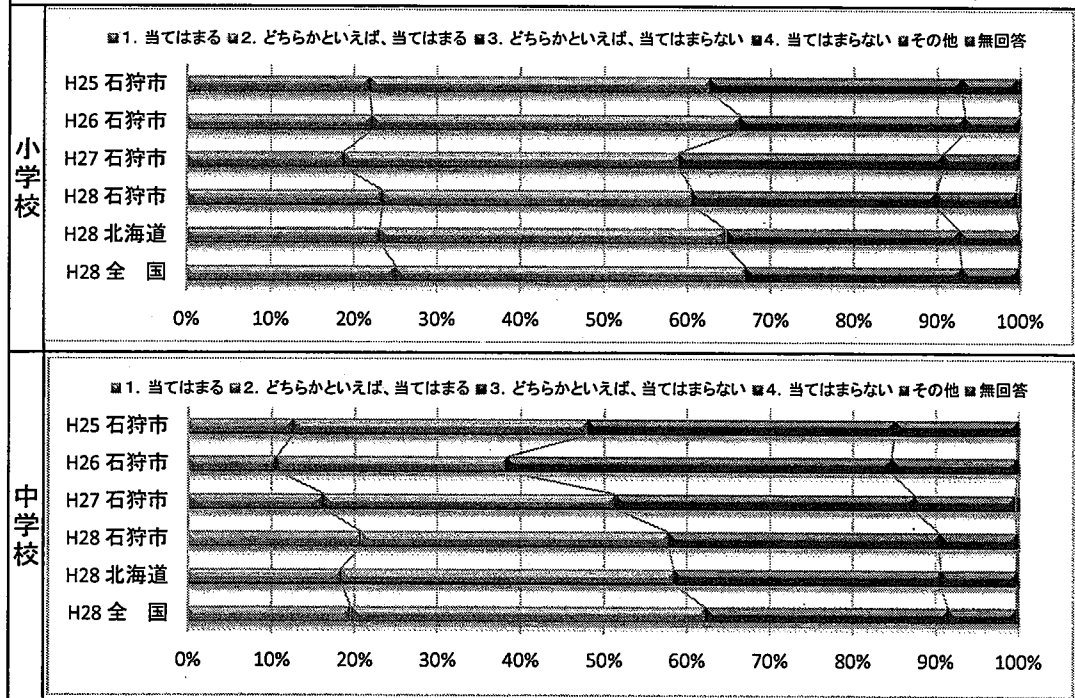
13. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



「国語の授業で資料を読み、表現する」は、中学生で向上の傾向

国語の授業で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている・どちらかと言うとしてい」割合は、小学生で60.6%(全国比-6.4ポイント、全道比-3.9ポイント)で、中学生では57.7%(全国比-4.5ポイント、全道比-0.8ポイント)で、昨年度より6.3ポイント高い結果でした。全道・全国平均を下回っていますが、中学生に向上の傾向がみられます。

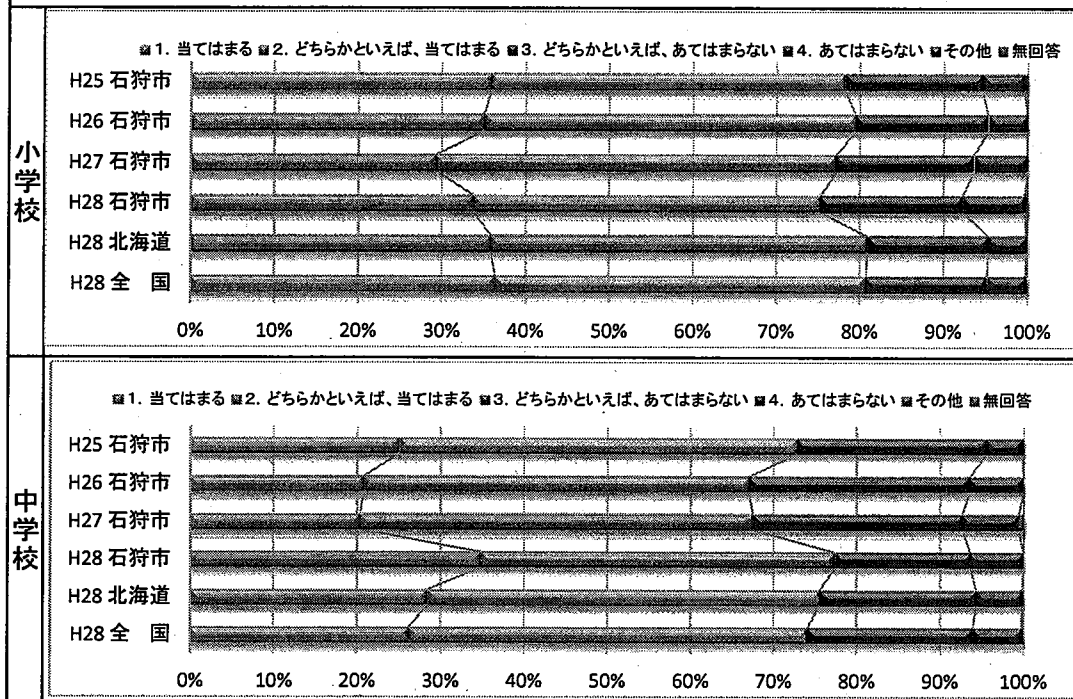
14. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



「国語の授業が分かる」は、中学生で全道・全国よりも高い傾向。

国語の授業の内容が「よく分かる・どちらかと言うと分かる」と回答している児童生徒の割合は、小学生で75.3%（全国比-5.4ポイント、全道比-5.6ポイント）で、中学生では77.5%（全国比+3.4ポイント、全道比+1.9ポイント）でした。

15. 国語の授業の内容はよく分かりますか

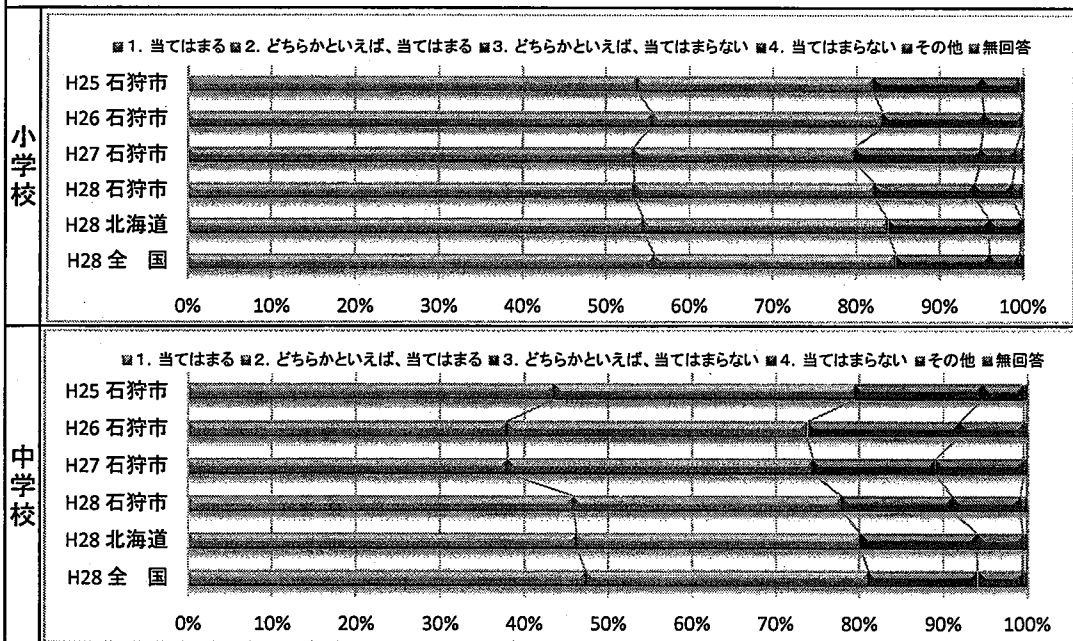


Ⅳ 算数・数学の学習について

「算数・数学のノートの工夫」は、改善傾向。

算数・数学の授業で、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている・どちらかというようにしている」割合は、小学生で82.2%（全国比-2.6ポイント、全道比-1.6ポイント）で、中学生では78.0%（全国比-3.1ポイント、全道比-2.2ポイント）でした。昨年度よりも改善傾向がみられます。

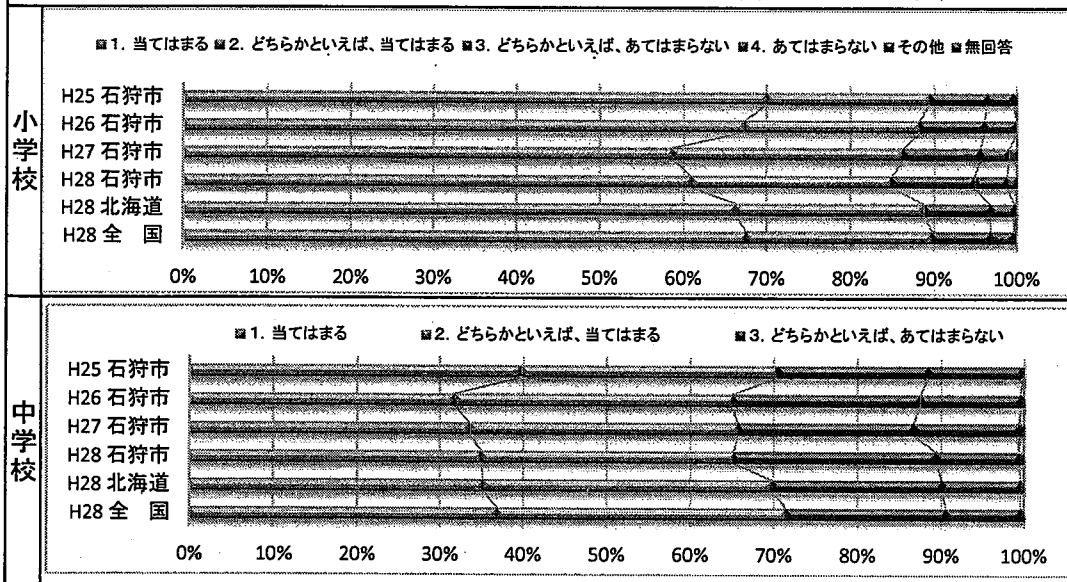
16. 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



「算数・数学の授業は将来役に立つ」意識の向上が課題

算数・数学の授業の内容が「将来、社会に出たときに役にたつ・どちらかと言うと将来、社会に出たときに役にたつ」割合は、小学生で85.0%(全国比-4.9ポイント、全道比-3.8ポイント)で、中学生では65.3%(全国比-6.2ポイント、全道比-4.5ポイント)でした。「将来、社会に出たときに役に立つ」と思える指導・授業づくりが今後のポイントとなります。

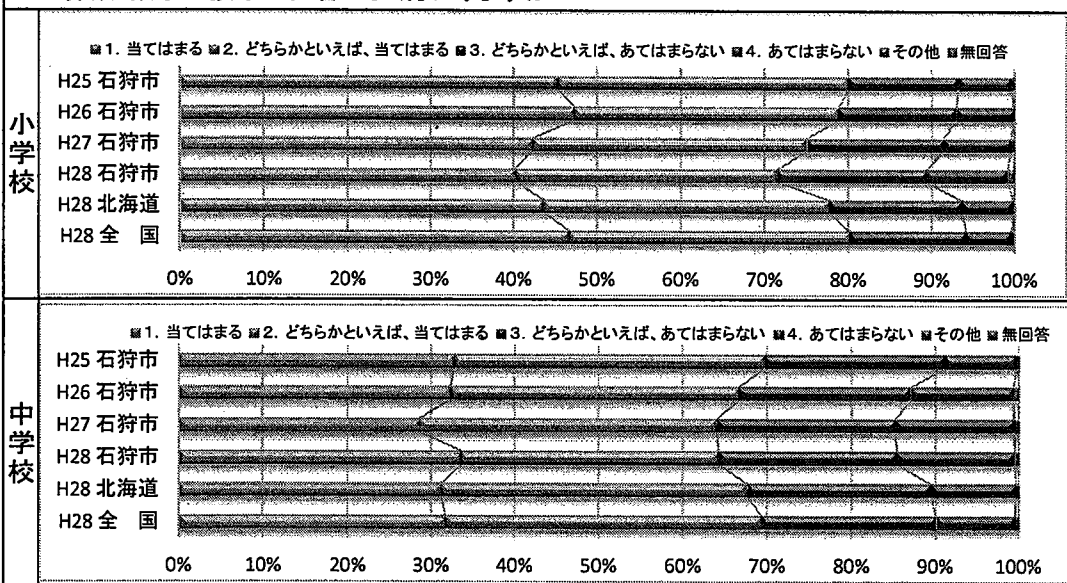
17. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役にたつと思いますか



「算数・数学の授業内容の理解」は授業改善が鍵

算数・数学の授業の内容が「よく分かる・どちらかと言うと分かる」割合は、小学生で71.5%(全国比-8.7ポイント、全道比-6.3ポイント)で、中学生では64.2%(全国比-5.2ポイント、全道比-3.4ポイント)でした。全道・全国平均を下回り、今後の授業改善が鍵となってきます。

18. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

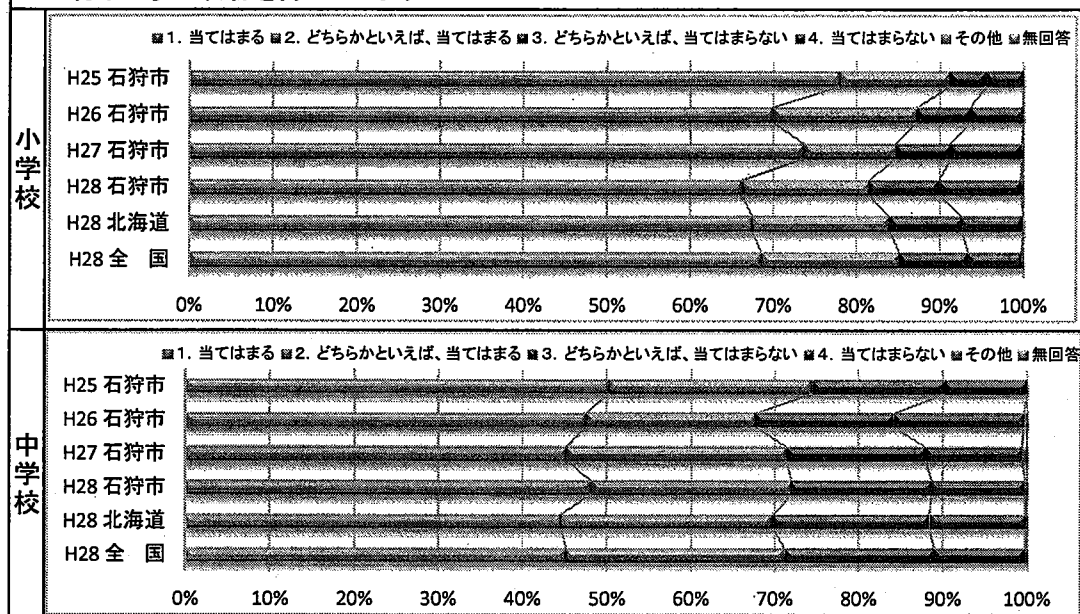


V 将来に関する意識・自尊心・自己有用感・規範意識

将来に関する意識・自尊意識は、全道・全国と同様

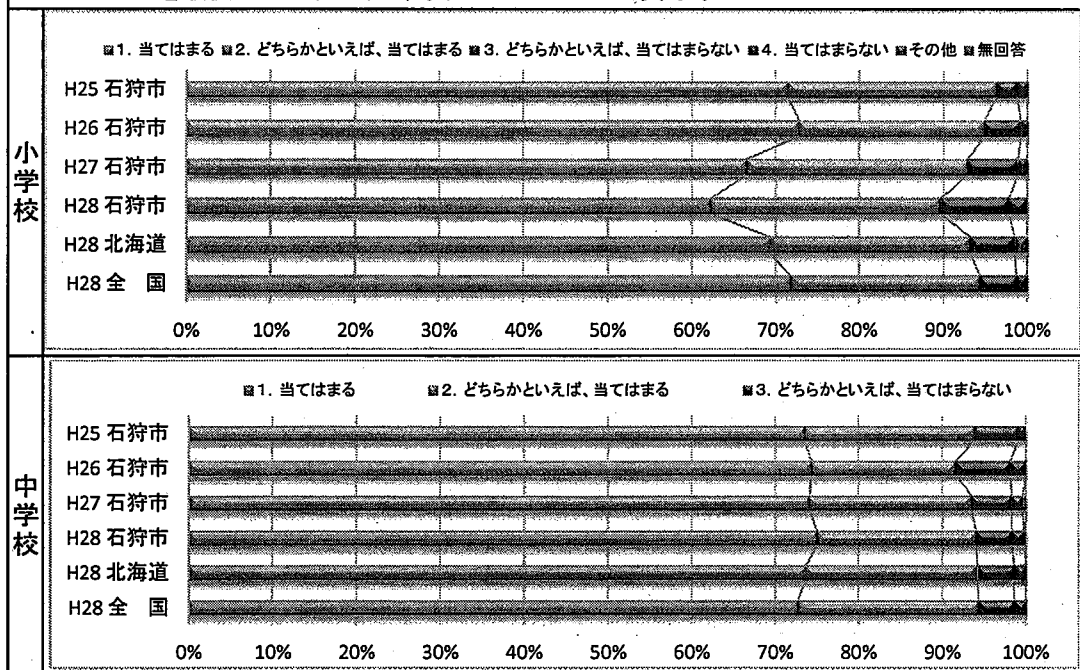
「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている」割合は、小学生で81.5%(全国比-3.8ポイント、全道比-2.5ポイント)で中学生では72.0%(全国比+0.9ポイント、全道比+2.3ポイント)でした。全道・全国平均とほぼ同様の傾向がみられます。

19. 将来の夢や目標を持っていますか



ものごとを最後までやり遂げて、「うれしかったことがある・どちらかといえばある」割合は、小学生で89.7%(全国比-4.7ポイント、全道比-3.5ポイント)で、中学生では94.0%(全国比-0.3ポイント、全道比-0.2ポイント)でした。全道・全国平均とほぼ同様の傾向がみられます。

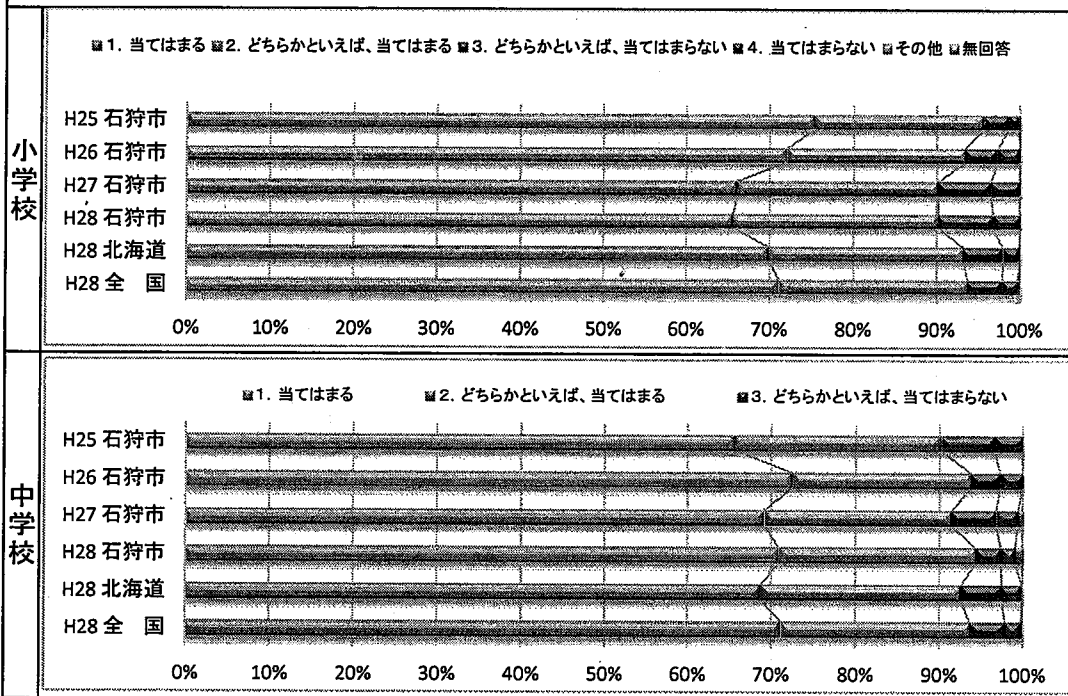
20. ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



自己有用感を持つ中学生は増加傾向

人の役に立つ人間になりたいと思いますかについて「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で90.3%(全国比-3.5ポイント、全道比-2.9ポイント)で、中学生では94.4%(全国比+1.6ポイント、全道比+1.9ポイント)でした。

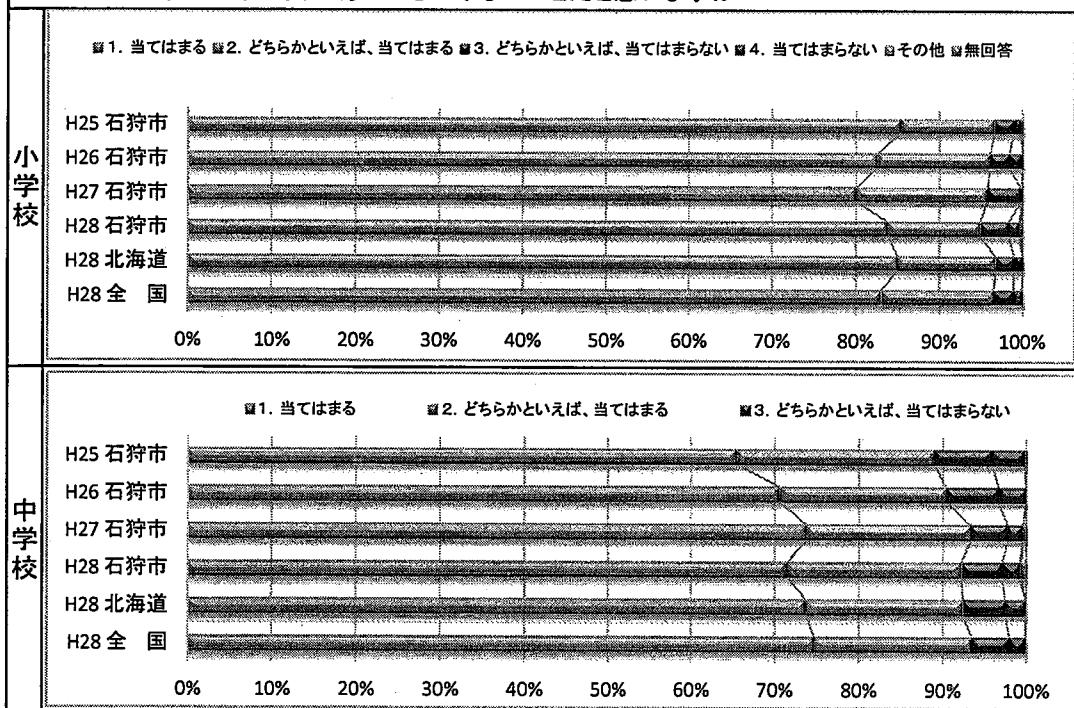
21. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



規範意識は定着しつつも、継続して取り組むべき課題

いじめは、どんな理由があっても「いけないことだと思う・どちらかといえばそう思う」割合は、小学生で94.9%(全国比-1.7ポイント、全道比-1.9ポイント)で、中学生では92.3%(全国比-1.3ポイント、全道比0.0ポイント)でした。

22. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



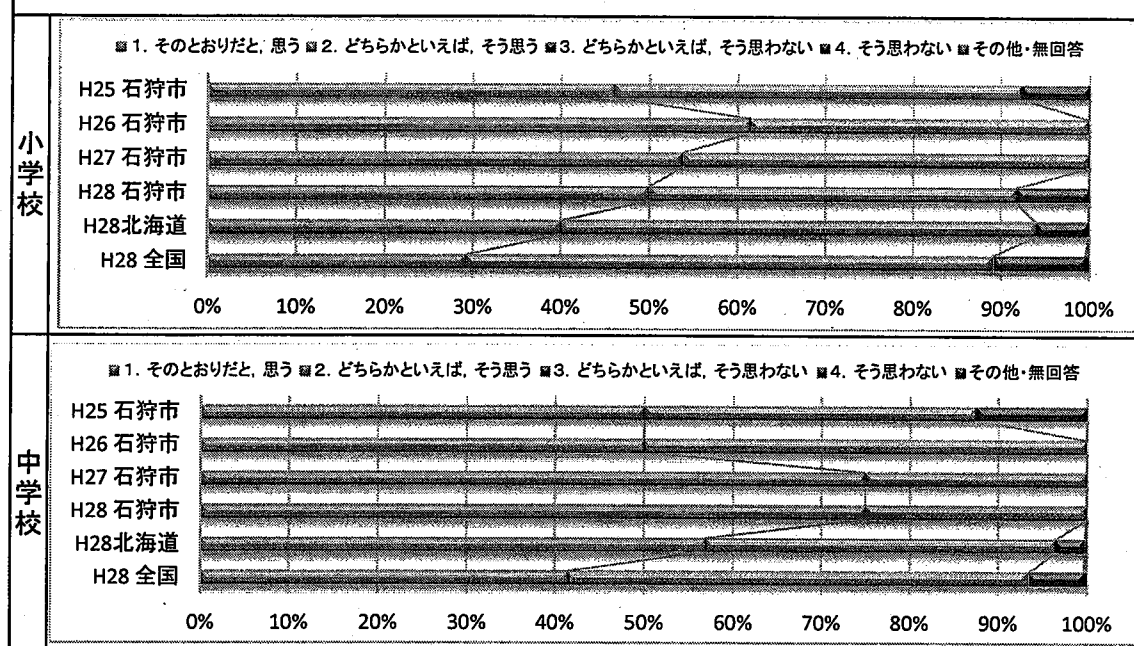
平成28年度 学習状況調査 「学校質問紙」 結果

I 学習態度・学習規律

礼儀正しく、落ち着いた態度での授業が定着

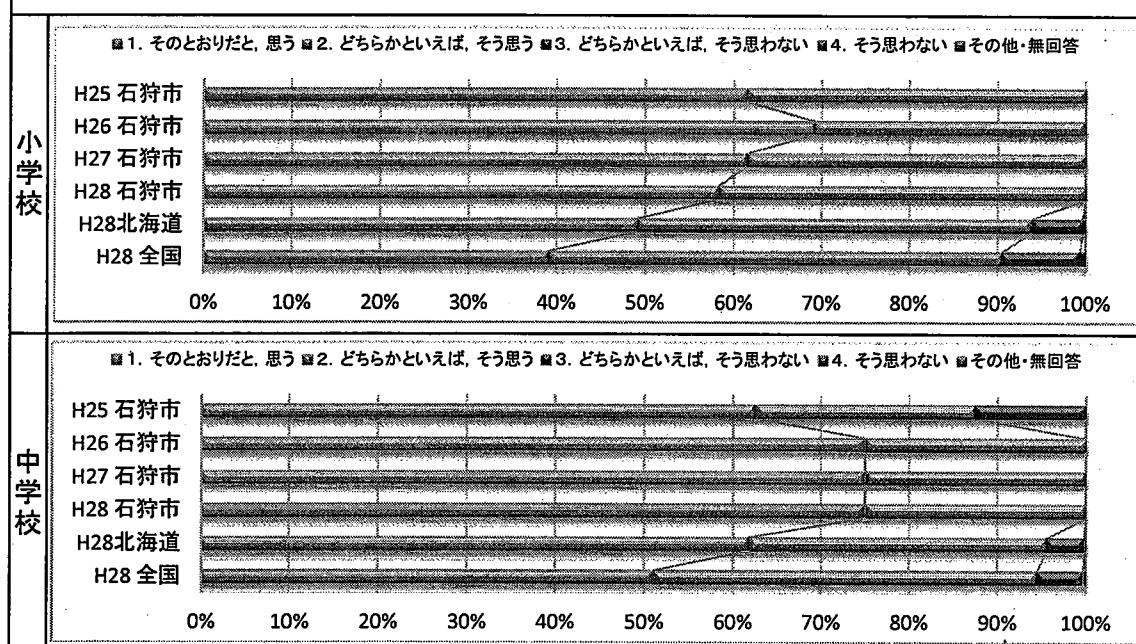
「礼儀正しい態度」の割合は、小学校で50.0%(全国比+20.7ポイント、全道比+9.9ポイント)で、中学校では、75.0%(全国比+33.5ポイント、全道比+18.1ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、礼儀正しい態度であることが伺えます。

1. 調査対象学年の児童・生徒は、礼儀正しいと思いますか



「私語がなく落ち着いている」割合は、小学校で58.3%(全国比+19.2ポイント、全道比+9.2ポイント)で、中学校では75.0%(全国比+23.9ポイント、全道比+13.1ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、落ち着いて授業に取り組んでいることが伺えます。

2. 調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

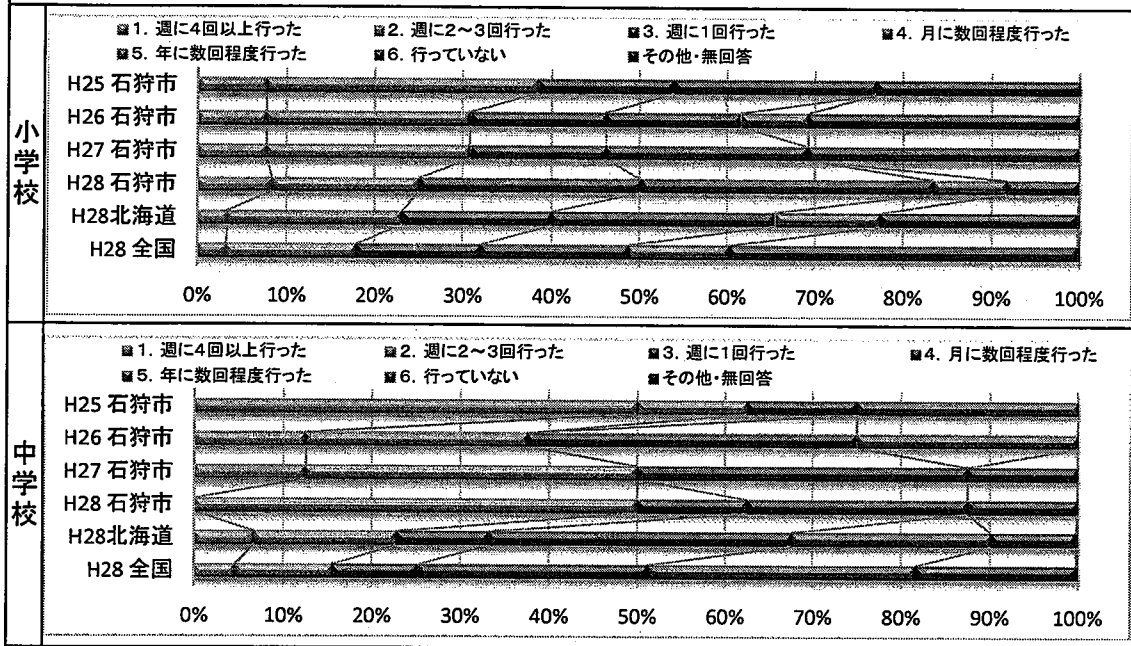


Ⅱ 学力向上に向けた取組

放課後や長期休業中を利用した補充的学習サポートが定着

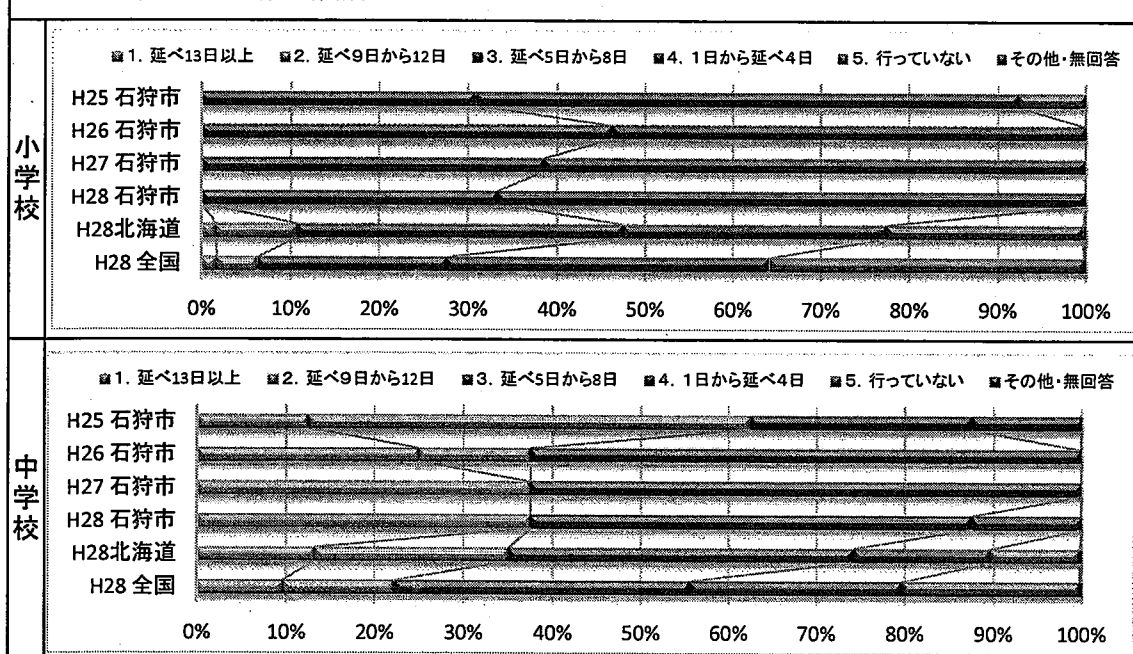
「放課後を利用した補充的な学習サポートを週に1回以上行った」割合は、小学校で50.0%(全国比+18.0ポイント、全道比+10.0ポイント)で中学校では、62.5%(全国比+37.2ポイント、全道比+29.3ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より積極的な取組を推進していることが伺えます。

3. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか



「長期休業日を利用した補充的な学習サポートを述べ5日以上実施した」割合は、小学校で33.3%(全国比+5.7ポイント、全道比-14.2ポイント)で、中学校では、87.5%(全国比+31.9ポイント、全道比+13.3ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より積極的な取組を推進していることが伺えます。

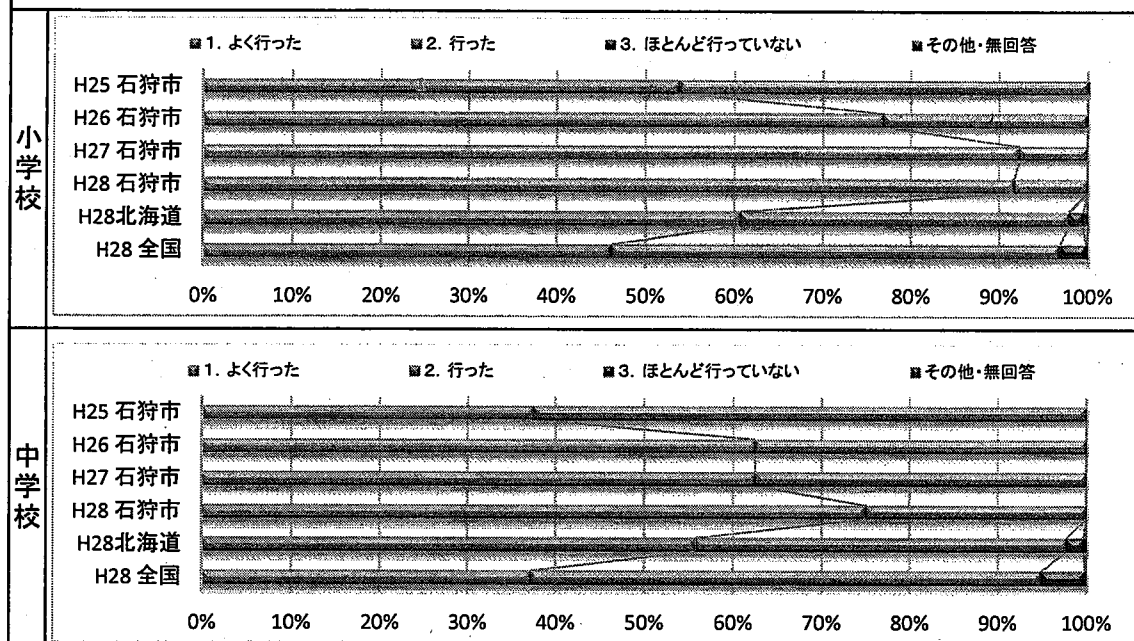
4. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)



全国学力・学習状況調査の結果を活用して改善

平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、「学校全体で教育活動を改善するために活用した」割合は、小学校で91.7%(全国比+45.5ポイント、全道比+31.0ポイント)で、中学校では、75.0%(全国比+37.9ポイント、全道比+19.3ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、特に小学校の上昇が大きく、教育指導の改善への意欲が伺えます。

5. 平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

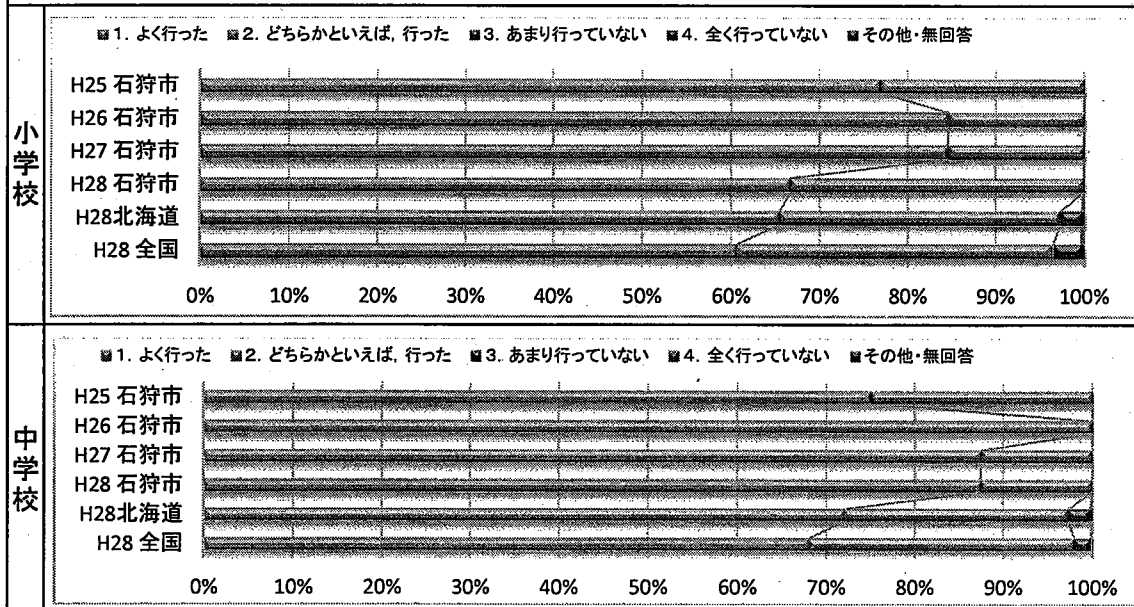


Ⅲ 指導方法・学習規律

学習規律維持の徹底は定着

「学習規律の維持を徹底した」割合は、小学校で66.7%(全国比+6.0ポイント、全道比+1.2ポイント)で、中学校では87.5%(全国比+19.5ポイント、全道比+15.4ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、学習規律の定着していることが伺えます。

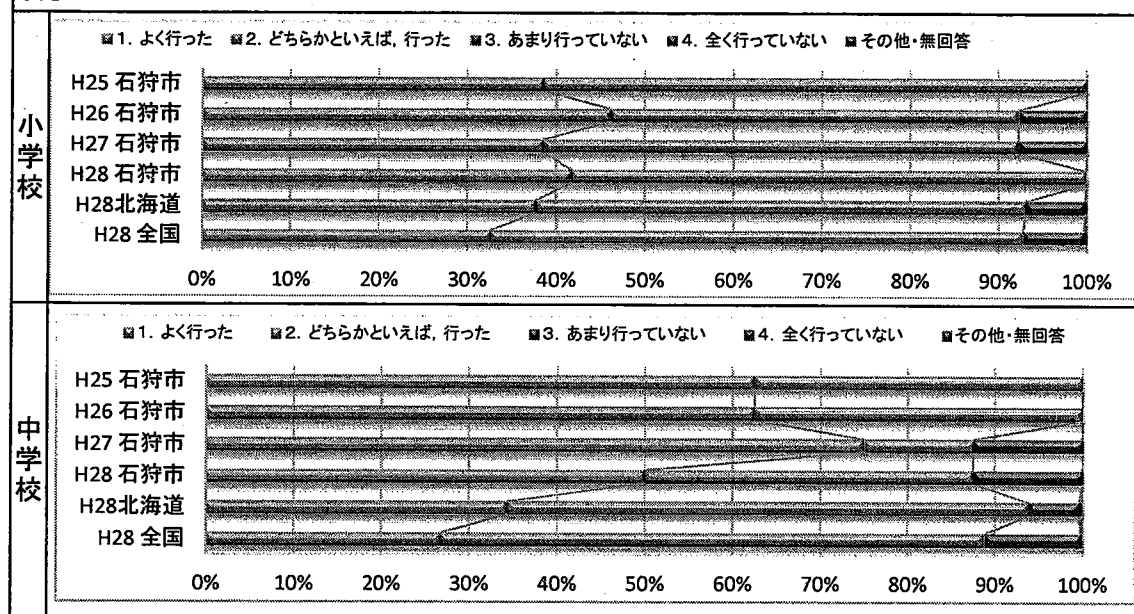
6. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか



教科の特質に注目した指導の改善に成果

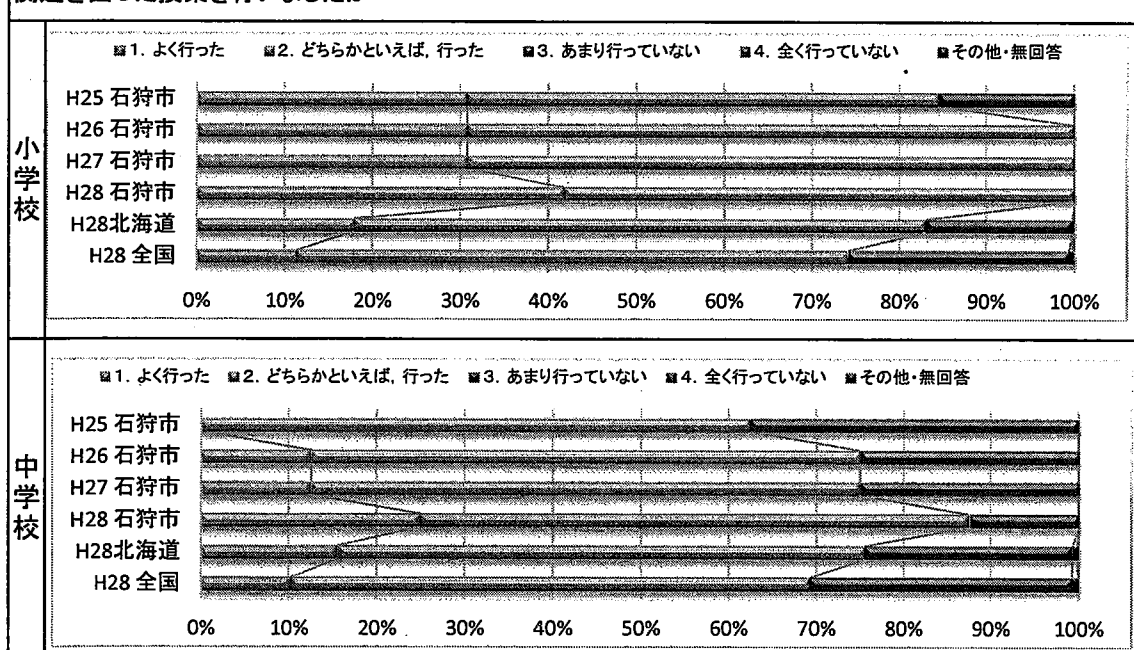
国語の指導として、「書く習慣を付ける授業をよく行った」割合は、小学校で41.7%(全国比+9.1ポイント、全道比+4.0ポイント)で、中学校では50.0%(全国比+23.2ポイント、全道比+15.6ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、特に中学校での指導・改善が伺えます。

7. 調査対象学年の児童・生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか



算数・数学の指導として、「前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行った」割合は、小学校で41.7%(全国比+30.3ポイント、全道比+23.8ポイント)で、中学校では25.0%(全国比+14.8ポイント、全道比+9.4ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、意識した取組が伺えます。

8. 調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

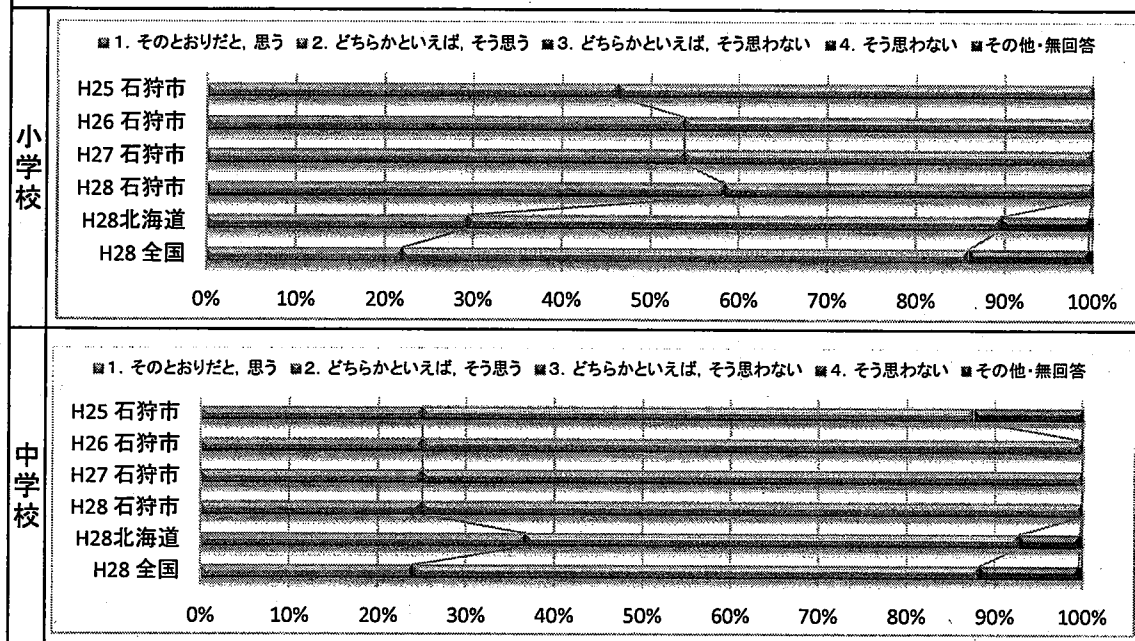


IV 言語活動

言語活動を取り入れた授業が定着

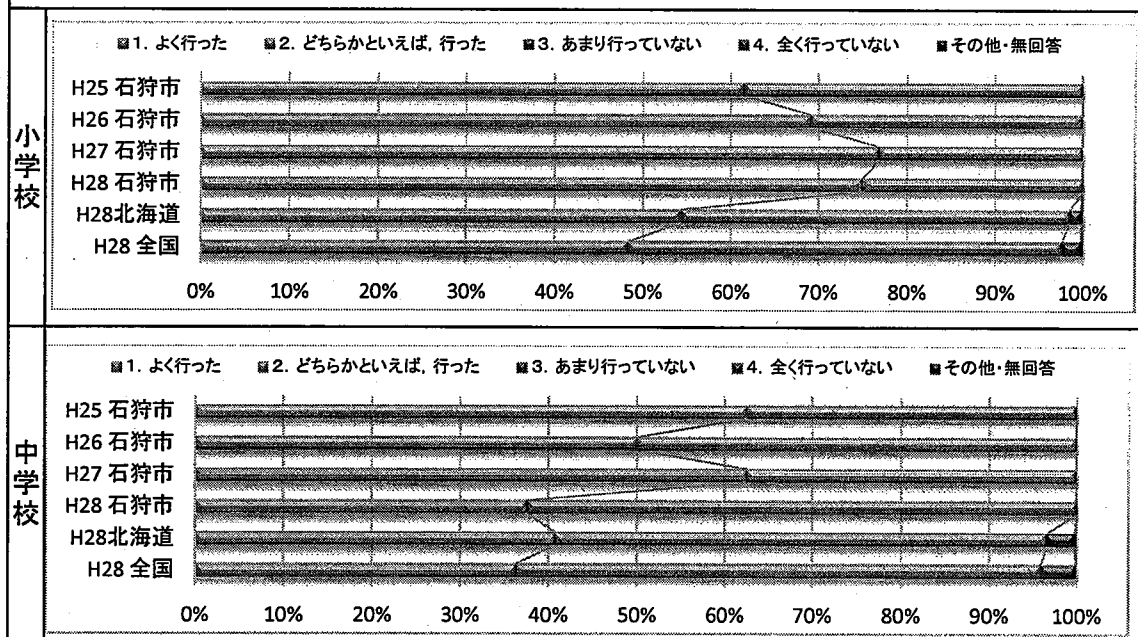
学級やグループでの話し合いなどの活動で、「相手の考えを最後まで聞くことができる・どちらかといえばできる」割合は、小学校で100.0%(全国比+14.2ポイント、全道比+10.6ポイント)で、中学校では100.0%(全国比+11.7ポイント、全道比+7.3ポイント)でした。小・中学校で、話し合い活動の積極的な取組が伺えます。

9. 調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか



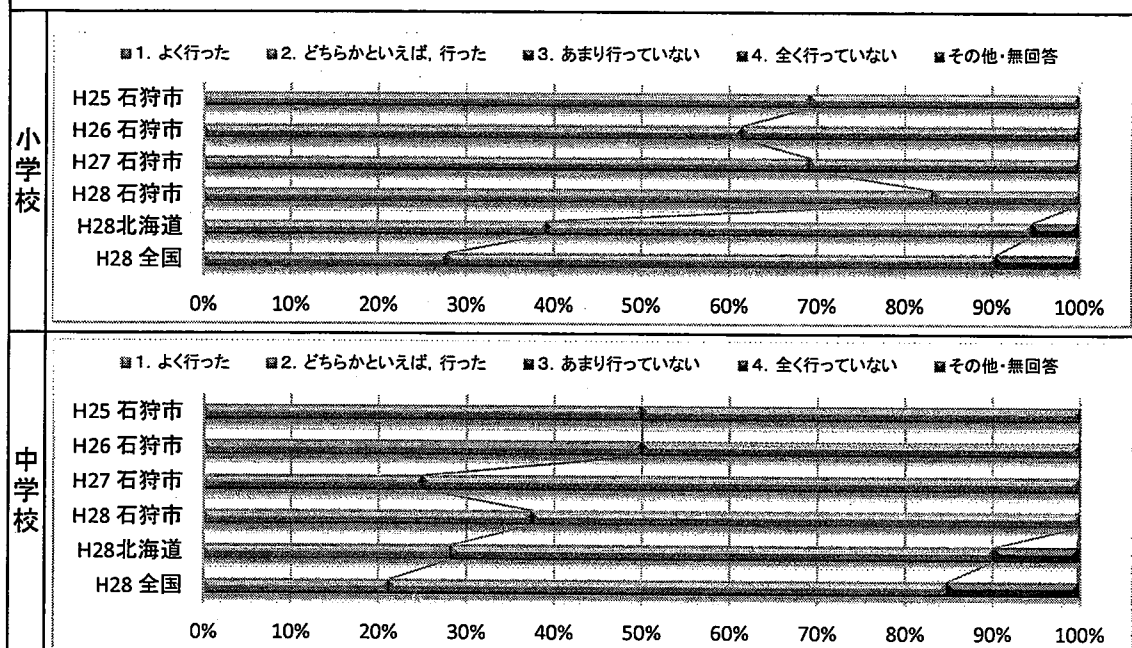
「発言や活動の時間を確保して授業を進めた・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100.0%(全国比+2.3ポイント、全道比+1.5ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+4.1ポイント、全道比+3.3ポイント)でした。全道・全国を上回り、積極的な取組が伺えます。

10. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか



「資料を使って発表ができるよう指導した・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100.0%(全国比+9.5ポイント、全道比+5.3ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+15.3ポイント、全道比+9.8ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、積極的な取組が伺えます。

11. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか

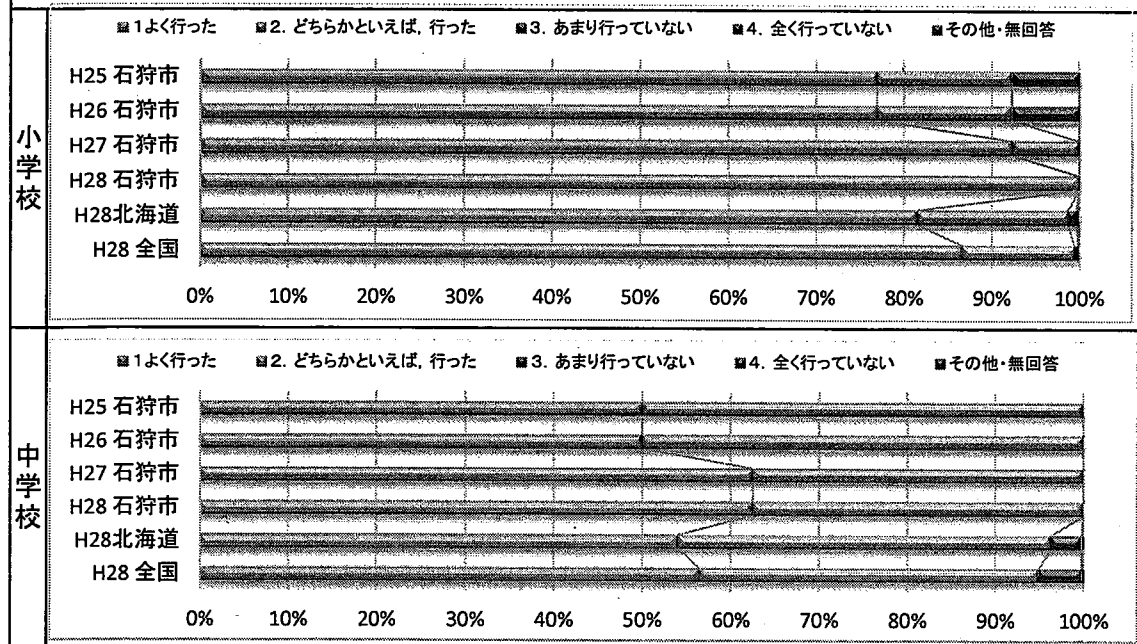


V 家庭学習・家庭との連携

家庭学習への認識が高まり、家庭との連携も定着

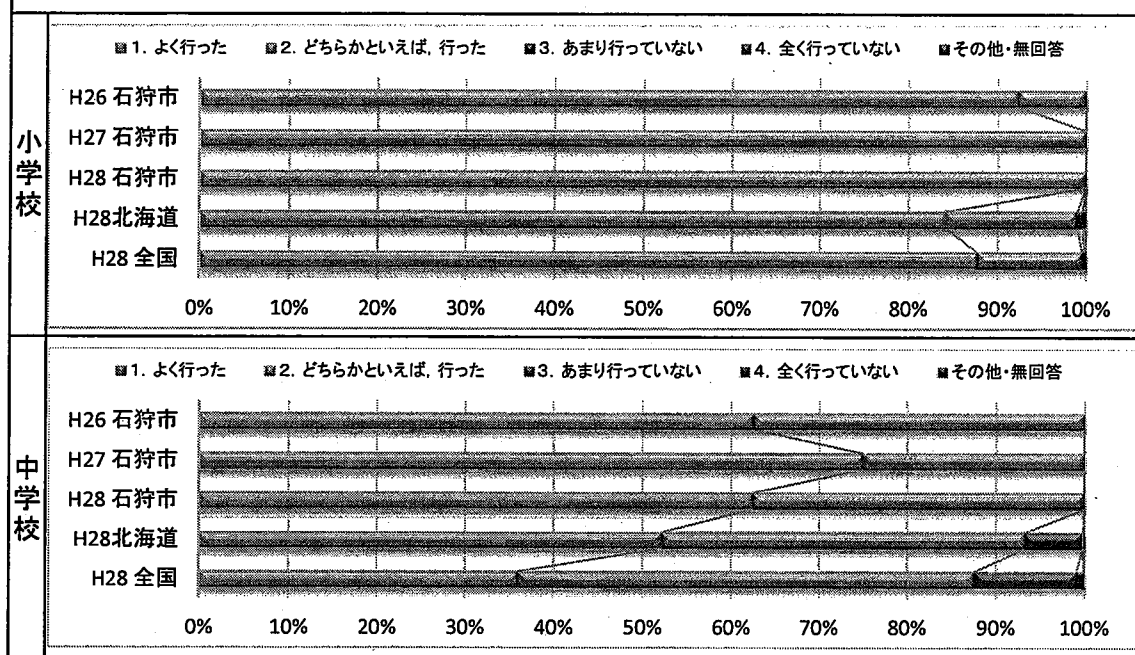
国語の指導として、「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で100%(全国比+13.5ポイント、全道比+18.5ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+6.1ポイント、全道比+8.5ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、家庭学習の定着・強化していることが伺えます。

12. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



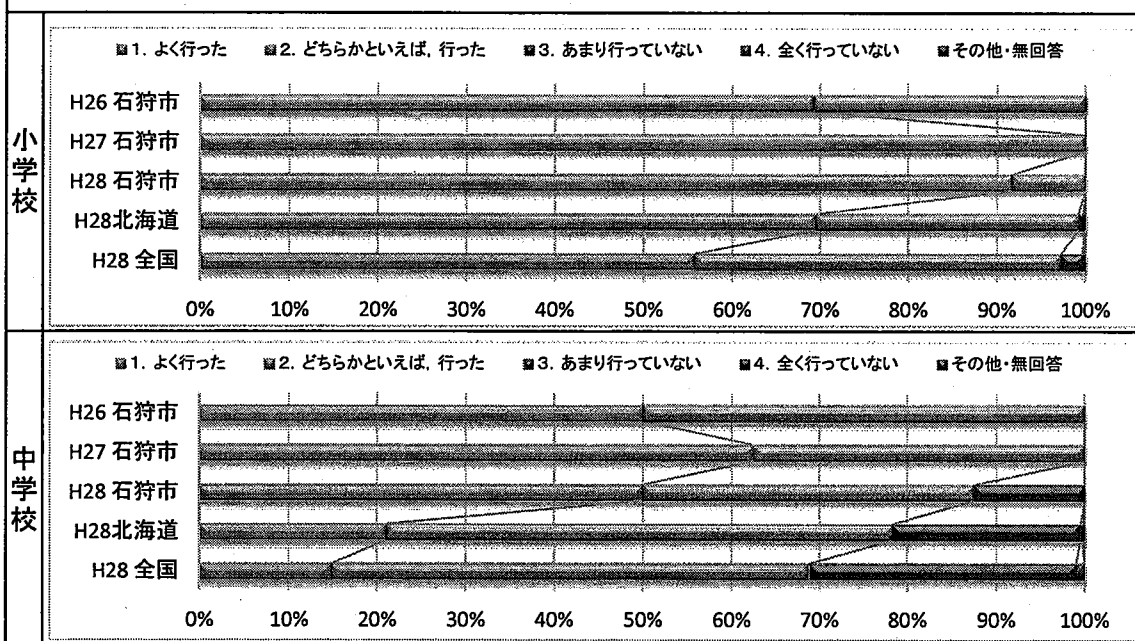
算数・数学の指導として、「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で100.0%(全国比+12.3ポイント、全道比+15.8ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+26.6ポイント、全道比+10.3ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、特に小学校での取組の定着が伺えます。

13. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



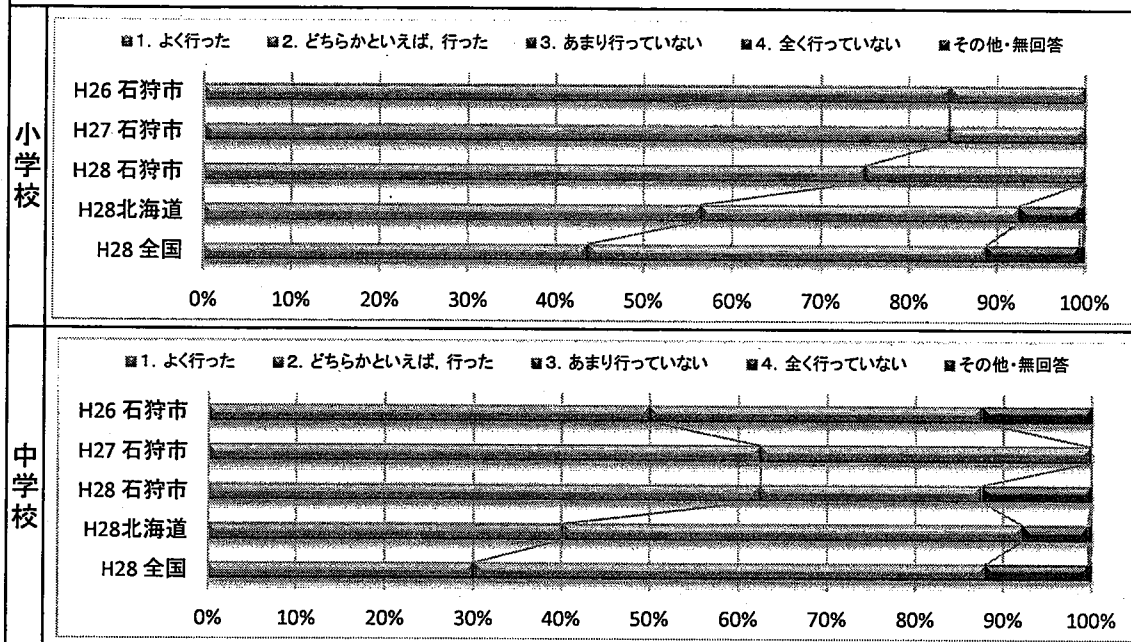
「児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけをよく行った(国語／算数・数学共通)」割合は、小学校で91.7%(全国比+35.9ポイント、全道比+22.2ポイント)で、中学校では、50.0%(全国比+35.1ポイント、全道比+28.9ポイント)でした。全道・全国より高く、小学校で100%であり、保護者に家庭学習を促す取組が向上しています。

14. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)



「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解をよく図った(国語／算数・数学共通)」割合は、小学校で75.0%(全国比+31.3ポイント、全道比+18.5ポイント)で、中学校では62.5%(全国比+32.5ポイント、全道比+22.2ポイント)でした。全道・全国より高く、家庭学習に対する教職員の共通理解が図られていることが伺えます。

15. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語／算数・数学共通)

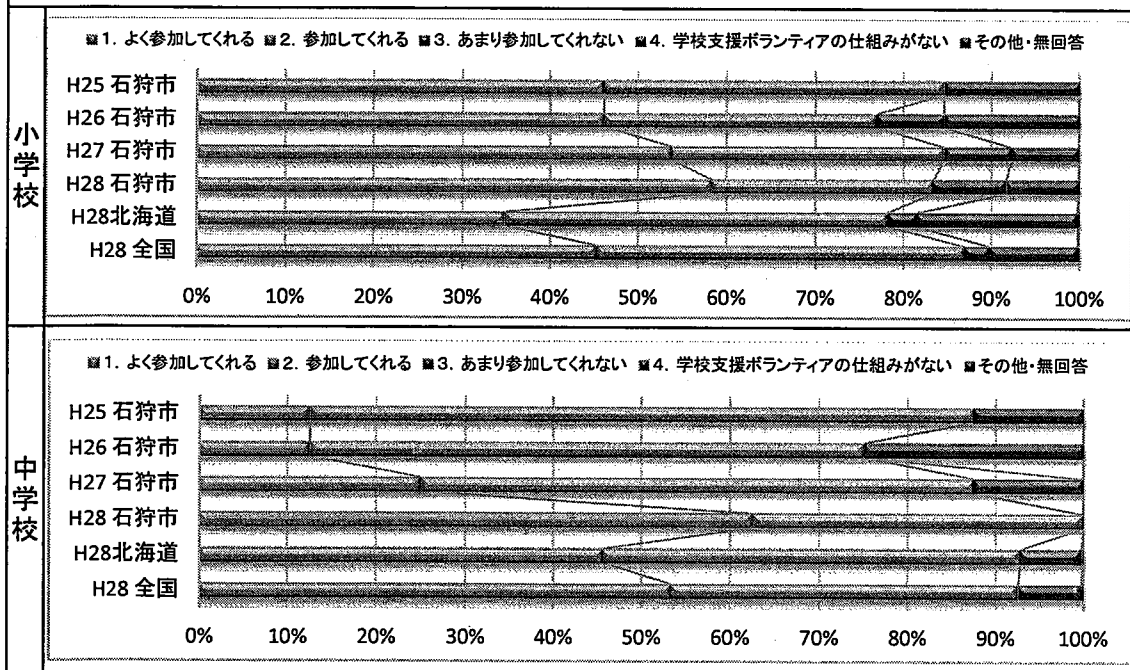


VI 地域・学校間連携

地域・小中間の連携教育は着実に進展

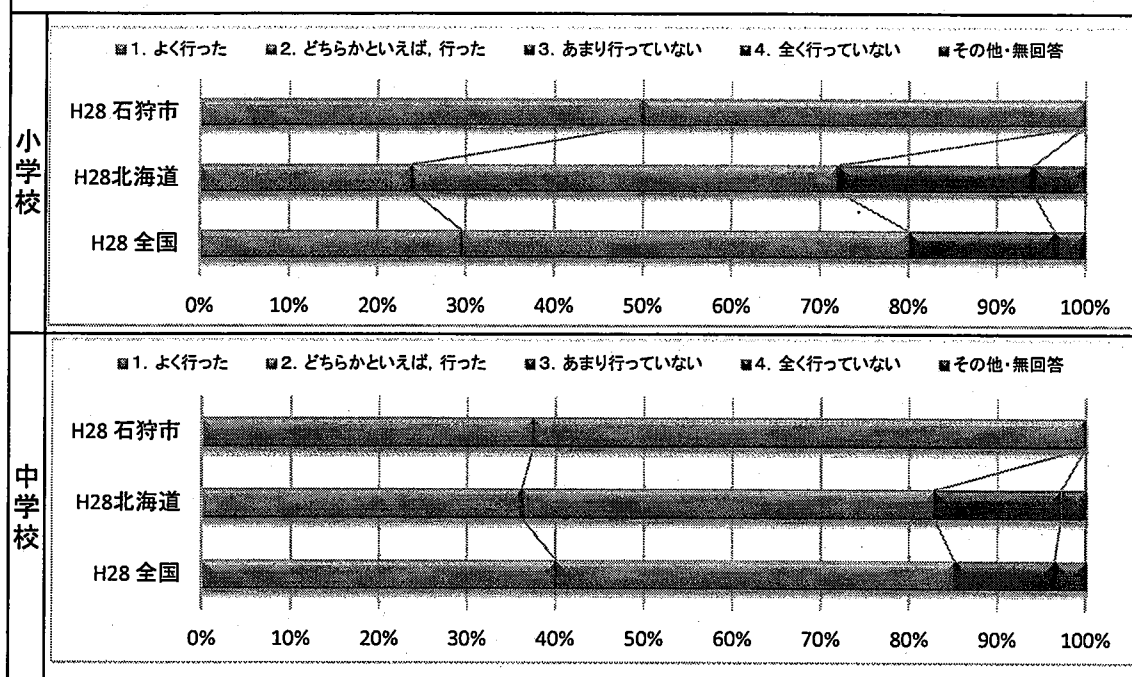
学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、「保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動によく参加してくれる」は、小学校で58.3%(全国比+13.0ポイント、全道比+23.5ポイント)で、中学校では62.5%(全国比+9.1ポイント、全道比+16.8ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より地域との連携が図られていることが伺えます。

16. 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか



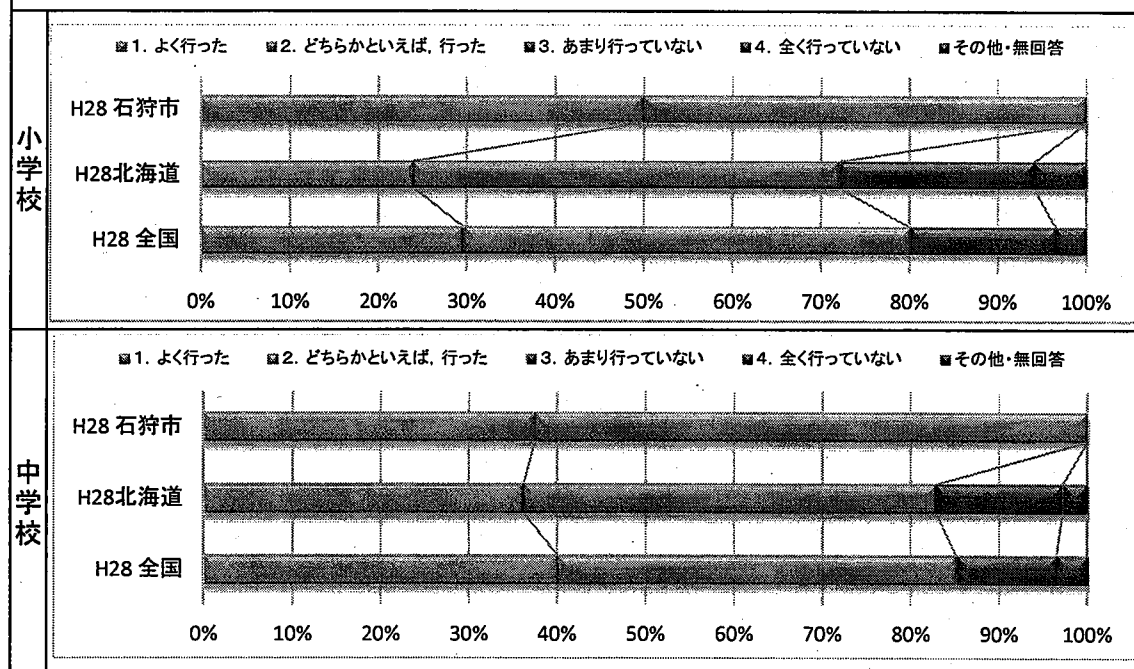
「前年度までに、近隣等の小学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流について、よく行った・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100%(全国比+20.0ポイント、全道比+28.1ポイント)で、中学校でも100%(全国比+15.0ポイント、全道比+17.3ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、連携が進められていることが伺われます。

17. 前年度までに、近隣等の小学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行いましたか



全国学力・学習状況調査の分析結果について、「近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した・どちらかといえば共有した」割合は、小学校で100.0%(全国比+50.5ポイント、全道比+43.9ポイント)で、中学校では87.5%(全国比+33.6ポイント、全道比+22.9ポイント)でした。全道・全国平均を上回り、より踏み込んだ小中の連携が図られていることが伺えます。

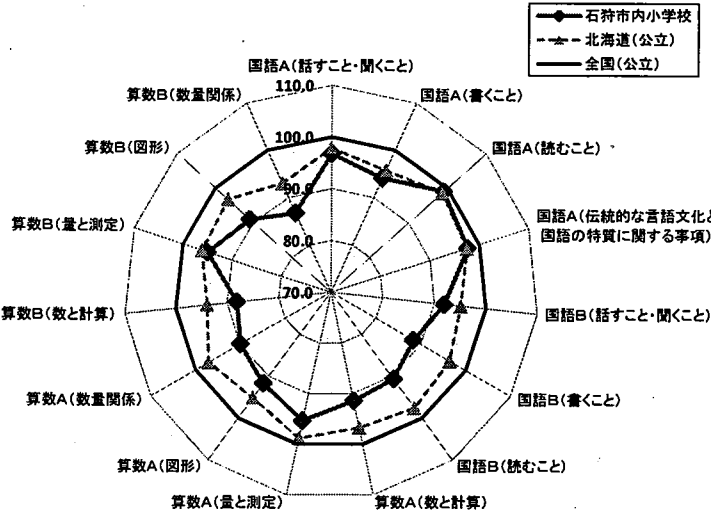
18. 平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか



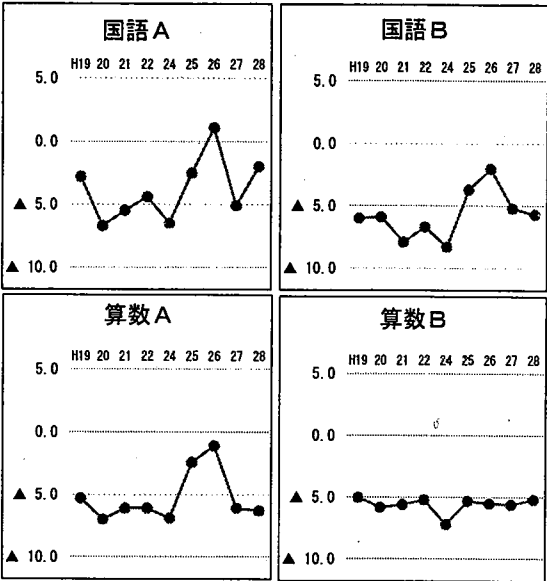
■石狩市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:12、児童数:593名)

【教科全体の状況】

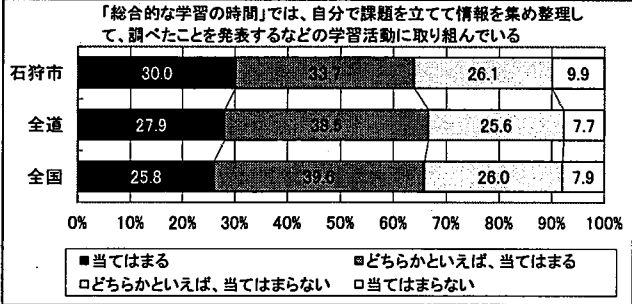
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



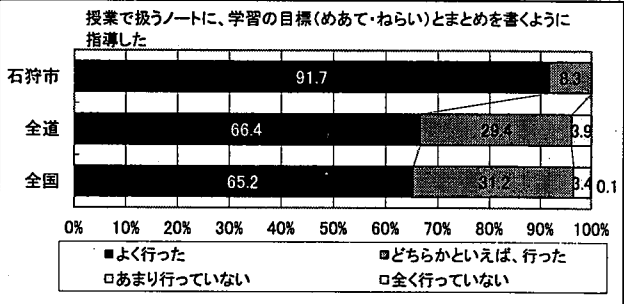
【平均正答率の全国との差の推移】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全道を上回り、「話すこと・聞くこと」で全道とほぼ同様である。 ○ 算数Bでは、「量と測定」で全道とほぼ同様である。 ○ 国語Bでは、「書くこと」、算数A・Bともに、「数量関係」に課題が残った。	○ 各学校で、授業において、児童が課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、「読むこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の定着につながっていると考えられる。 ○ 日常の授業の中で課題設定やまとめ・振り返り、板書の工夫・ノート指導の徹底を図ったことにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着につながっていると考えられる。
児童質問紙	○ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表している」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。	
学校質問紙	○ 「授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書く指導」を「よく行った」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。	

【石狩市の学力向上策】

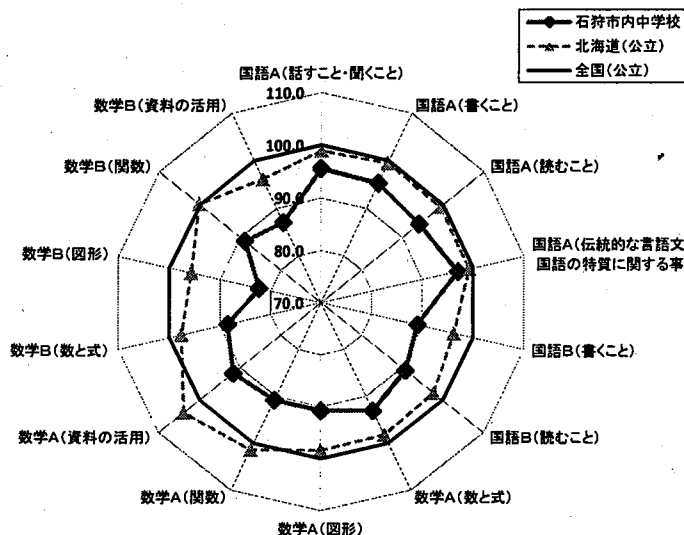
- ◎ 市内全校に「学校力向上に関する総合実践事業」の成果の普及並びに中学校区を単位とした「小中連携教育」の充実
- ◎ 「エキスパート・サポーター」や「学力向上サポーター」を活用した「個に応じたきめ細かな指導」及び「わかる授業」の推進
- ◎ 学年が上がる前の春休みに、今まで学習したことを振り返る「春休み帳」を全学年で実施
- ◎ 教職員の資質向上や授業力向上を図るためのサマーセミナーや教職8年未満の教員を対象としたウインターセミナーの実施

■石狩市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:8、生徒数:531名)

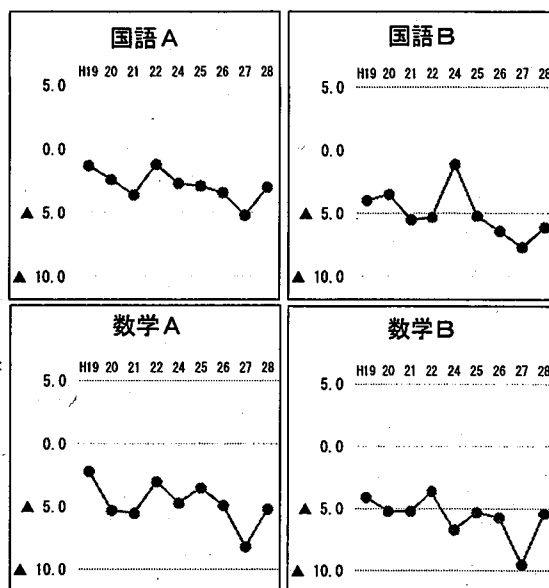
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

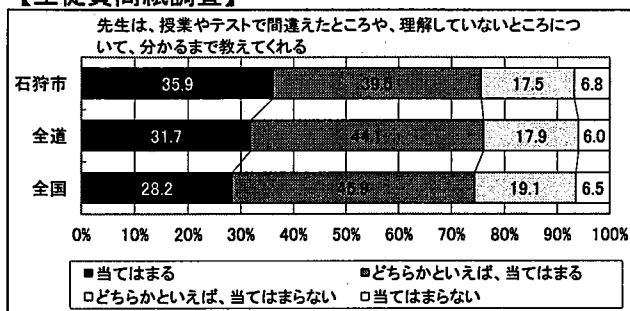


【平均正答率の全国との差の推移】

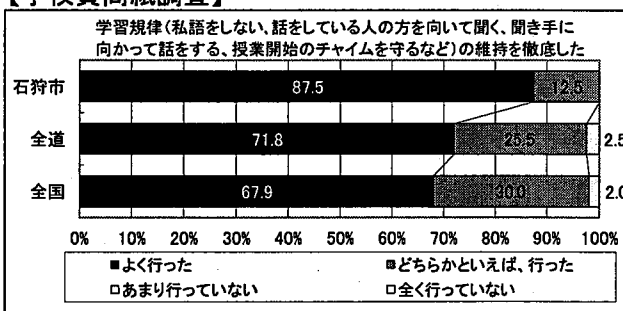


※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 前年度と比較して、すべての教科で全国との差が縮まっている。 ○ 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全道とほぼ同様である。 ○ 国語Bでは、「書くこと」、数学Aでは、「図形」、数学Bでは、「図形」、「資料の活用」に課題が残った。	○ 各学校で、授業において、生徒に分かるまで教え、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ったことにより、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の定着が図られたと考えられる。
生徒質問紙	○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。	○ 「学力向上サポーター」、「学習支援モデル事業」の活用や小学校と連携した学習規律の指導が定着してきたことにより、前年度と比較して、全ての教科において改善傾向が見られていると考えられる。
学校質問紙	○ 「学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。	

【石狩市の学力向上策】

- ◎ 市内全校に「学校力向上に関する総合実践事業」の成果の普及並びに中学校区を単位とした「小中連携教育」の充実
- ◎ 「学力向上サポーター」、「学習支援モデル事業」を活用した「個に応じたきめ細かな指導」及び「わかる授業」の推進
- ◎ 学年が上がる前の春休みに、今まで学習したことを振り返る「春休み帳」を全学年で実施
- ◎ 教職員の資質向上や授業力向上を図るためのサマーセミナーや教職8年未満の教員を対象としたウインターセミナーの実施